

特20
305

文學社編輯所編纂



中等小地理 外國之部

東京

文學社

中等小地理外國之部

凡例

- 一、本書は、中等小地理本邦之部と同じく、高等女學校、師範學校の女子部及び簡易科の教科用書と、小學校教員講習の用書とに充てんが爲に編纂したるものなり。
- 一、本書は、之を別ちて二篇となし、第一篇には各大洲に就きて叙し、第二篇には締盟各國の地理を説きたり。
- 一、各大洲誌に於ては、各大洲の終に、列國の面積・人種・人口・政治・宗教の表を掲げて、參考の用に供したり。
- 一、締盟各國誌に於ては、記事を精確にし、各大洲誌の簡明と相待ちて講學に資し、特に朝鮮・支那の記事に力を盡

したり。

一、本書の記事及び諸表は、最近の事實と統計とに據りて之を記載したり。

一、地圖は、各大洲に分ちて、之を挿入し、また朝鮮・支那及び歐洲中部の地圖を特に加へたり。

一、挿畫は、最新の寫眞に據りて彫刻せしめたること、本邦之部と同じ。

明治三十三年七月

編者 識

中等小地理外國之部

目次

第一篇 各大洲誌

第一章 亞細亞洲

第一	位置	一
第二	海岸線	二
第三	地勢	四
第四	氣候	六
第五	產物	八
第六	人種	九
第七	宗教	一〇

頁數

第八章 邦制	一一
第九章 都會	一二
第十章 交通	一六
第十一章 生業	一八
第十二章 沿革	一九
亞細亞諸邦概表	二〇
第二章 阿西亞尼亞洲	二二
第一 位置	二二
第二 海岸線	二二
第三 地勢	二三
第四 氣候	二四
第五 產物	二五

第六 人種	二六
第七 宗教	二七
第八 邦制	二七
第九 都會	二九
第十 交通	三〇
第十一 生業	三一
第十二 沿革	三一
阿西亞尼亞諸邦概表	三三
第三章 歐羅巴洲	三四
第一 位置	三四
第二 海岸線	三五
第六 地勢	三六

第 四 氣 候	三九
第 五 產 物	四〇
第 六 人 種	四一
第 七 宗 教	四二
第 八 邦 制	四二
第 九 都 會	四三
第 十 交 通	四五
第 十 一 生 業	四五
第 十 二 沿 革	四六
歐羅巴諸邦概表	四七
第 四 章 亞非利加洲	四九
第 一 位 置	四九

第 二 海 岸 線	四九
第 三 地 勢	五一
第 四 氣 候	五三
第 五 產 物	五四
第 六 人 種	五五
第 七 宗 教	五五
第 八 邦 制	五六
第 九 都 會	五九
第 十 交 通	六〇
第 十 一 生 業	六〇
第 十 二 沿 革	六一
亞非利加諸邦概表	六二

第五章 北亞米利加洲……………六四

第一 位置……………六四

第二 海岸線……………六四

第三 地勢……………六六

第四 氣候……………六九

第五 產物……………七〇

第六 人種……………七〇

第七 宗教……………七二

第八 邦制……………七二

第九 都會……………七三

第十 交通……………七五

第十一 生業……………七六

第十二章 沿革……………七六

北亞米利加諸邦概表……………七八

第六章 南亞米利加洲……………七九

第一 位置……………七九

第二 海岸線……………七九

第三 地勢……………八〇

第四 氣候……………八二

第五 產物……………八三

第六 人種……………八三

第七 宗教……………八四

第七 邦制……………八四

第九 都會……………八五

第十 交通.....八六

第十一 生業.....八六

第十二 沿革.....八七

南亞米利加諸邦概表.....八八

第二篇 締盟各國誌

第一章 亞細亞諸邦.....九〇

第一 朝鮮.....九〇

第二 支那.....一〇一

第三 暹羅.....一一九

第二章 歐羅巴諸邦.....一二三

第一 英吉利.....一二三

第二 佛蘭西.....一二七

第三 西班牙.....一三一

第四 葡萄牙.....一三四

第五 伊太利.....一三六

第六 奧地利、匈牙利.....一三九

第七 瑞 西.....一四三

第八 白耳義.....一四六

第九 和 蘭.....一四八

第十 丁 抹.....一五一

第十一 獨 逸.....一五三

第十二 露西亞.....一五七

第十三 瑞典諾威.....一六一

第三章 北亞米利加諸邦……………一六五

第一 合衆國……………一六五

第二 墨西哥……………一七〇

第四章 南亞米利加諸邦……………一七三

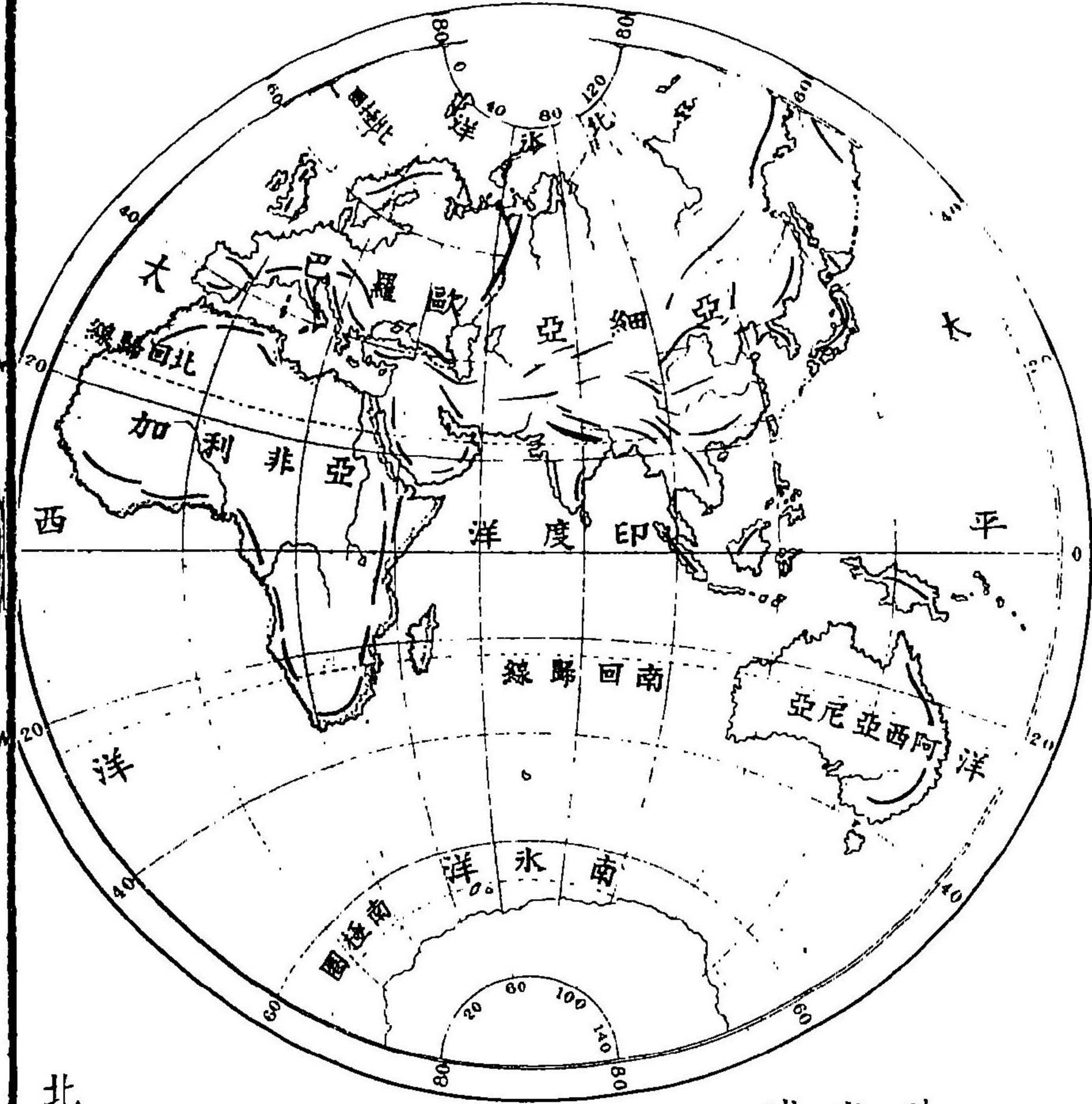
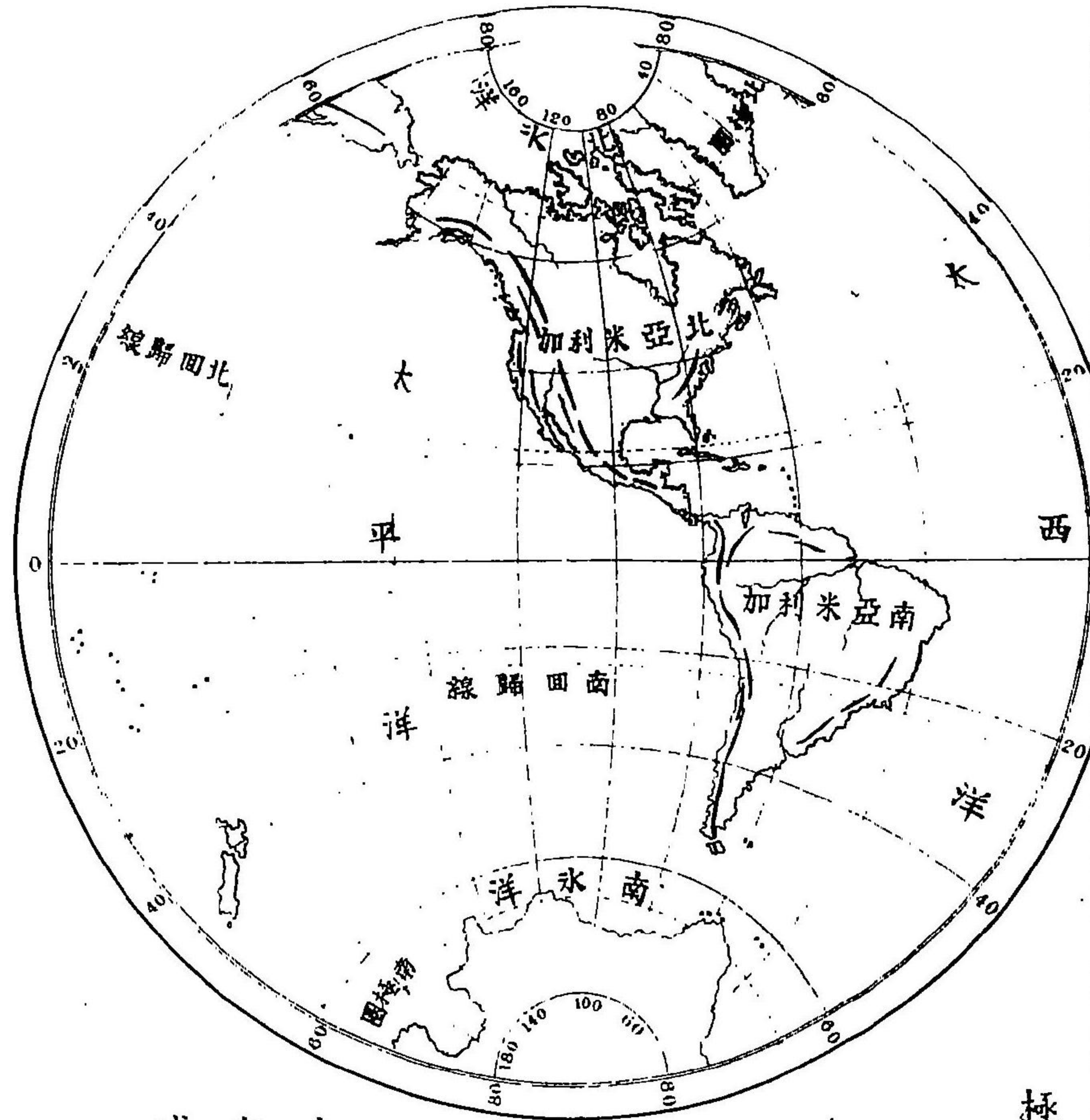
第一 秘 露……………一七三

第二 伯拉西爾……………一七五

目次終

球半西

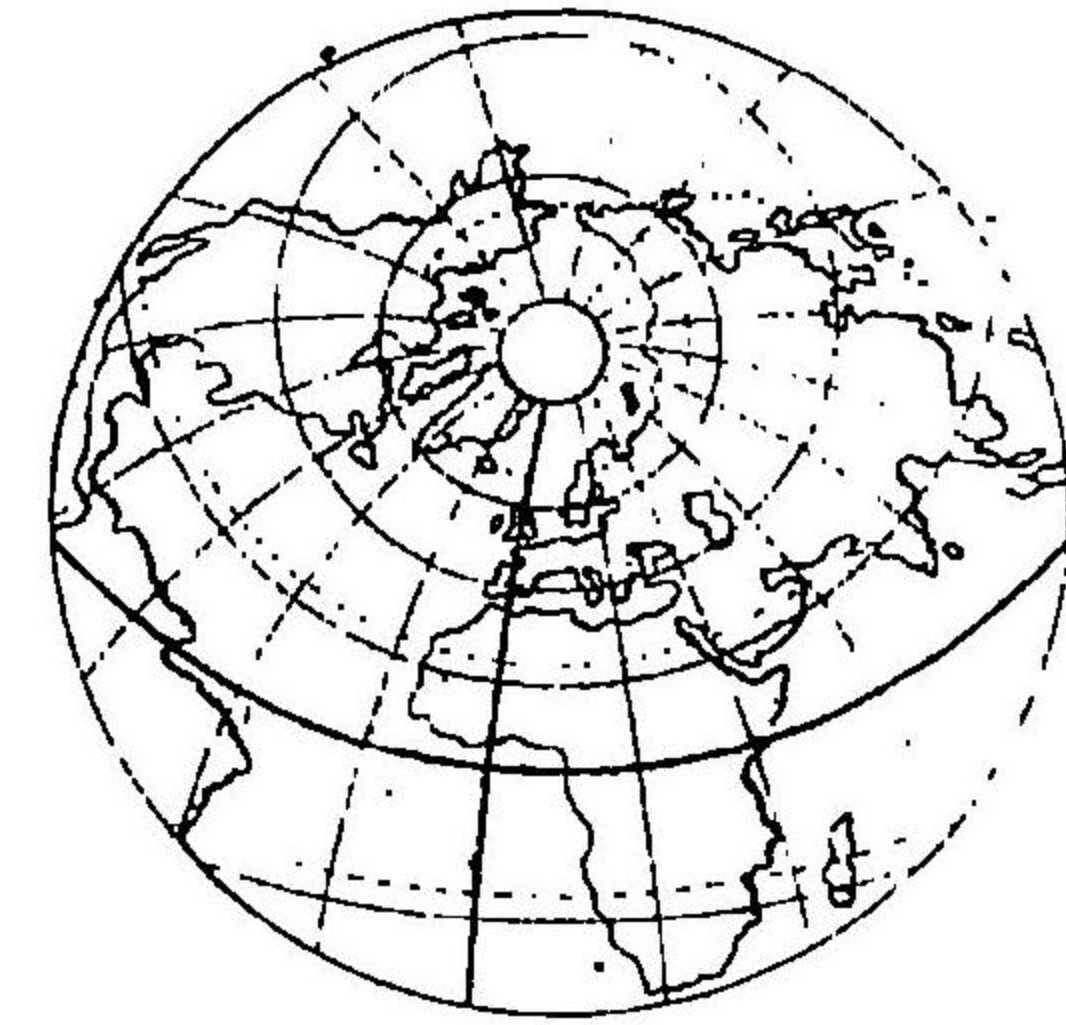
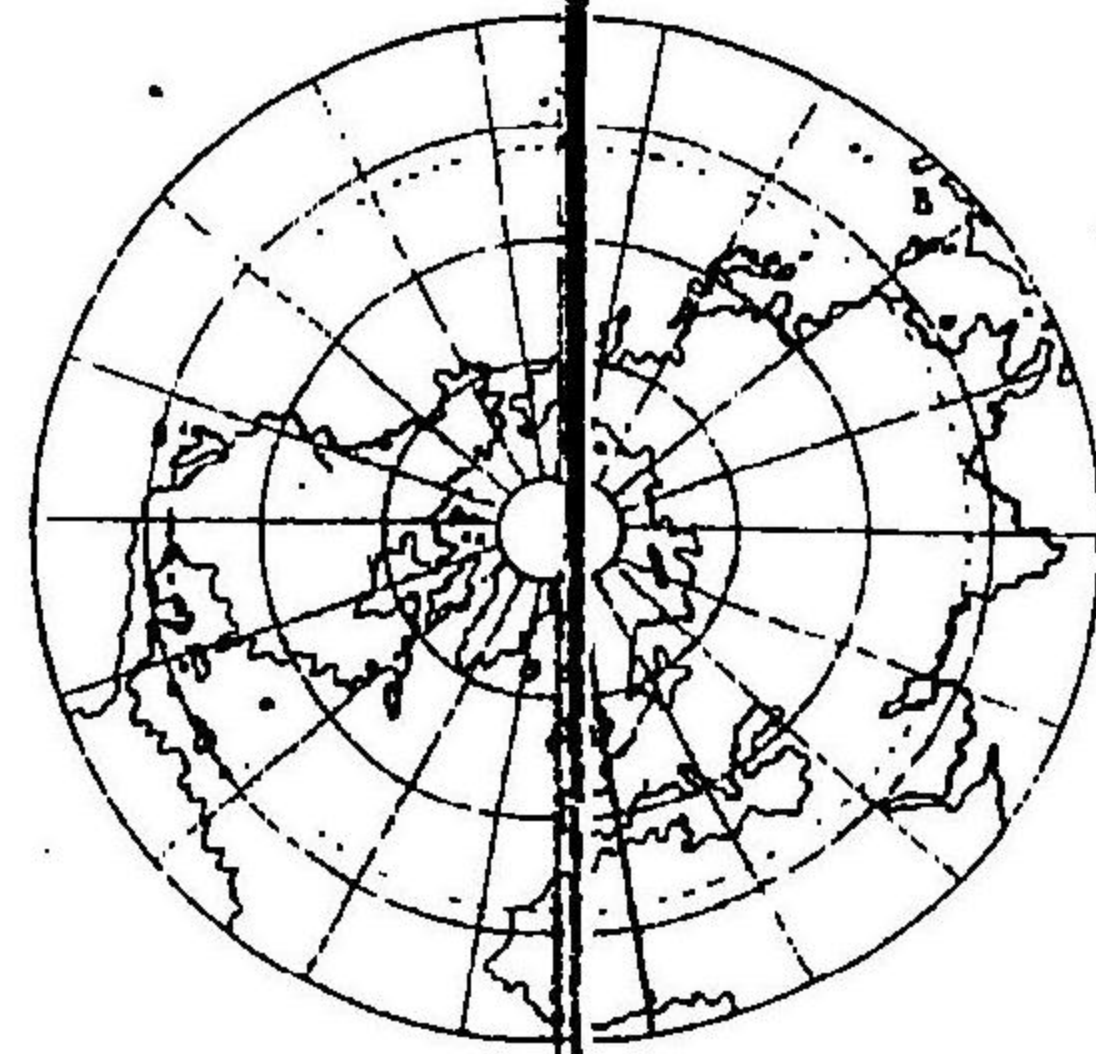
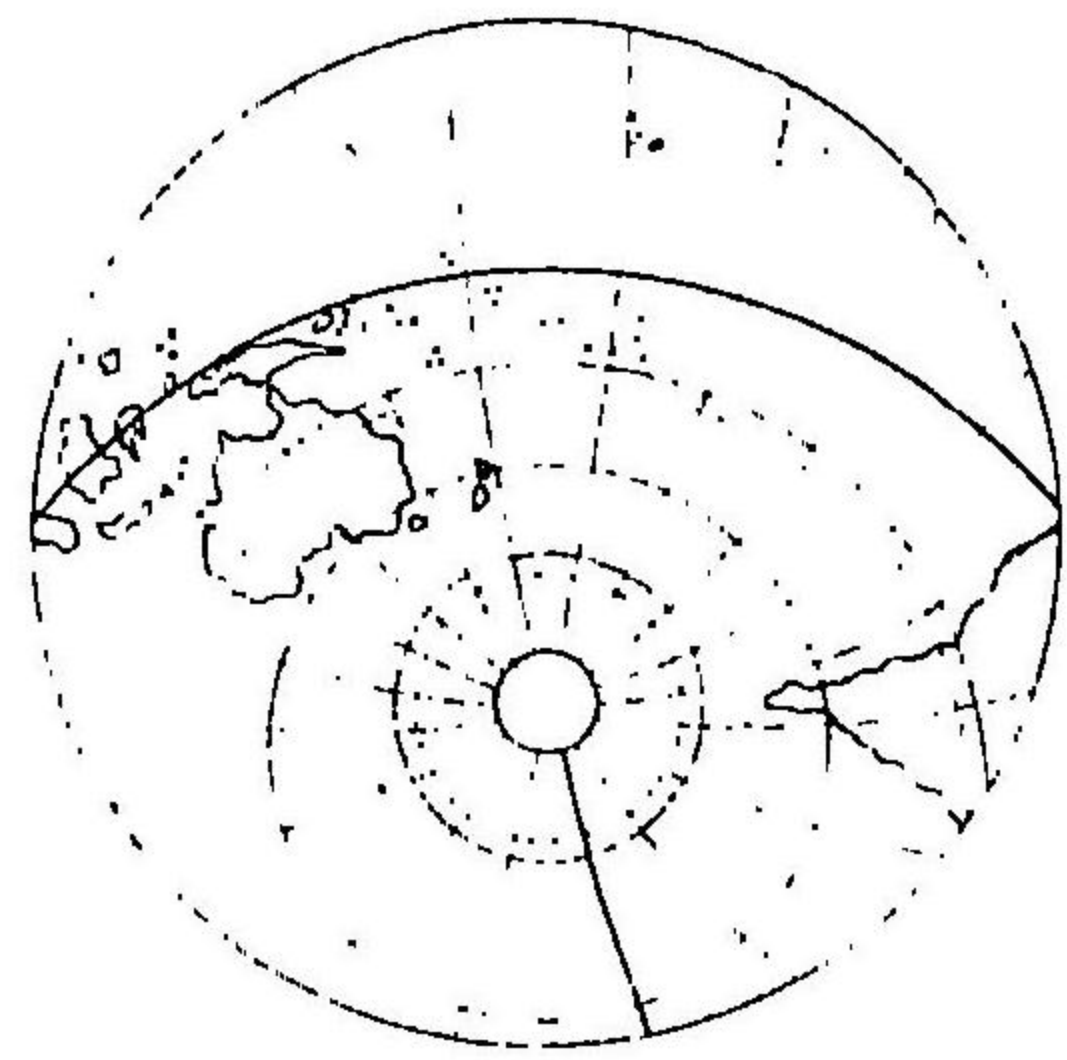
球半東



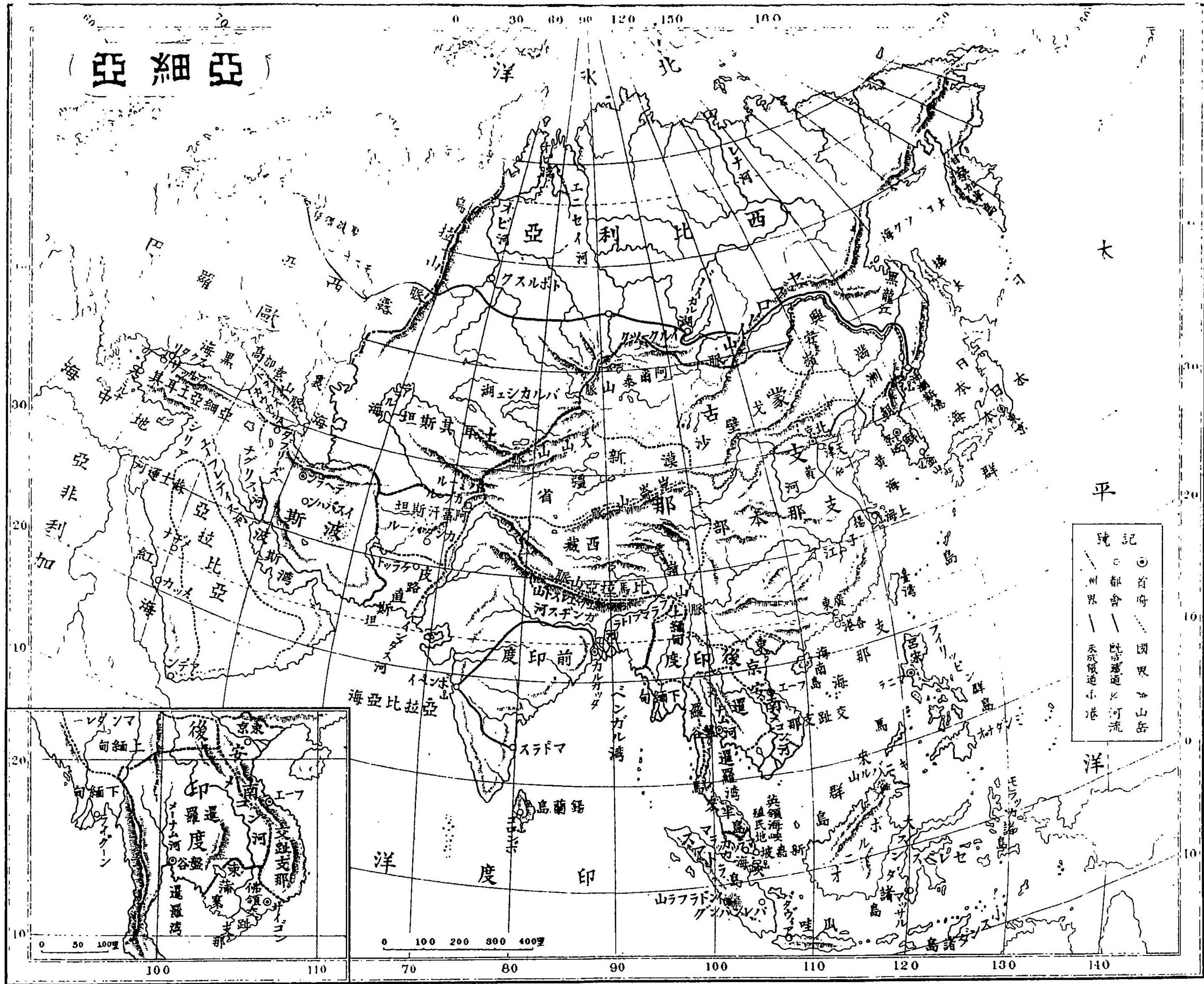
球半水

極北

球半陸



亞細亞



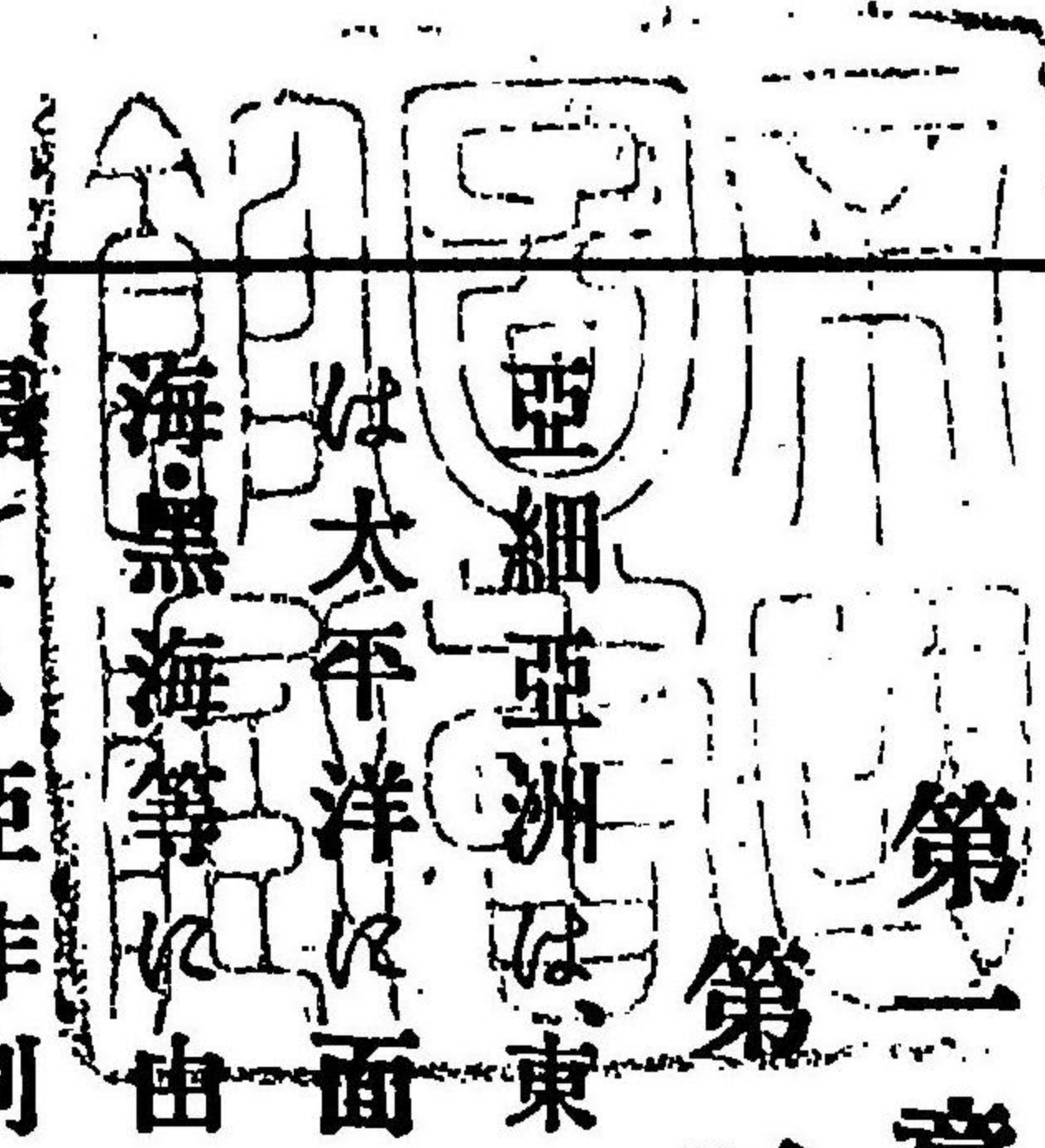
中等小地理外國之部

文學社編輯所編纂

第一篇 各大洲誌

第一章 亞細亞洲

第一位置



亞細亞洲は、東半球の東北部に位し、北は北氷洋に臨み、東は太平洋に面し、南は印度洋に向ひ、西は烏拉山、烏拉河、裏海、黒海等に由りて歐羅巴ニ界し、紅海及び蘇土の運河を隔て、亞非利加と相對す、北緯一度二十分より七十八度二十五分に達し、東經二十六度より西經百七十度に至る。

廣袤及
び人口

東西二千五百里、南北二千二百里、面積は島嶼を合算して二百八十八萬方里、人口は八億八千餘萬あり。實に地球上陸地の三分の一を占めて、全人口の三分の二を有せり。

第二一 海岸線

海灣及
び半島

本洲の海岸線は、出入甚た多し、東北隅に甘察加半島ありて、オコーツク海其南に彎入す。又其南にある朝鮮半島は、我日本群島と相對して日本海を擁す。朝鮮の西南に黃海あり、其水深く陸地に入りて、支那の直隸灣となる。灣の西南に支那本部あり、半圓狀をなして海中に出づ。其南に彎入したるを支那海とし、支那本部の南西にあるを後印度の半島とす。其西側より南に突出せる馬來半島は、西の方

島嶼

前印度の大牛島と對してベンガル灣を抱けり。印度の西に亞拉比亞半島あり。其間に彎入せるは亞拉比亞海にして、更に西北に進入せるは波斯灣なり。紅海は、亞拉比亞と亞非利加洲との間にあり、蘇士の運河に由りて地中海と相通す。地中海の東岸に、小亞細亞の半島あり、此半島は、北に黒海を帯び、マイルモラ海峽を隔て、歐羅巴と相對す。北氷洋の沿岸は、オビ灣の外は、殆ど一直線を爲せり。本洲の東方なる太平洋中には、島嶼頗る多し。東北部にて著名なるを、我日本群島及び樺太とす。東南部には、馬來群島散布し、其中大なるものは、呂宋・ボルネオ・スマトラ・瓜哇・セレベス・ミンダナオ等なり。又北氷洋上には、數多の島嶼

相連り、支那の東南には海南島、印度洋には錫蘭島あり。

第三 地 勢

山脈
西蔵の高原
蒙古及びパミールの高原

本洲の地勢は、中央部に大山脈連亘して、處々に高原をなせり。其最も高きは比馬拉亞山脈にして、南方印度の境にあり。其山脈中のエヴェレストと稱する山峰の如きは、直立二萬九千尺に達し、世界第一の高嶺たり。比馬拉亞山脈の北に崑崙山脈あり、其兩山脈の間を西蔵の高原とす。此高原は平均高度一萬三千尺に達して、人類の棲息せる最高土なり。崑崙山脈の北には、天山山脈、亞爾泰山脈、ヤブロンイ山脈等あり、其間を蒙古の高原とす。此等の高地の相會する所は、即ちパミールの高原なり。又滿洲、蒙古の境に

平原

馬來群島の山脈

河流

に、興安嶺あり。支那本部と西蔵との間に、雲嶺山脈あり。歐羅巴の境には、烏拉、高加索の兩山脈あり。低地には、西比利亞、土耳其斯坦、支那、印度等の平原あり。就中最も低きは、土耳其斯坦地方にして、往々海面より低き所ありと云へり。馬來群島は山嶽多く、殊に高峻なる火山脈に富めり。ボルネオのキニバル山、スマトラのインドラフラ山の如きは、皆火山質の高山にして、其高さ一萬尺内外に達せり。河流の大なるものは、概ね中央の高地より發して、北東南の三方に流下す。其北流するものは、西比利亞のオビエニセイ、レナの三河、東流するものは、滿洲の黒龍江、支那本部の黃河、楊子江、南流するものは、後印度のメコン、メーナム、

前印度のガンヂス・ブラマ・プー・トラインダス、土耳其のチ
グリス・ユー・フレティス等の數河とす。中にも楊子江は、本
洲第一の大河にして、流程一千三百里を超えたり。

湖沼

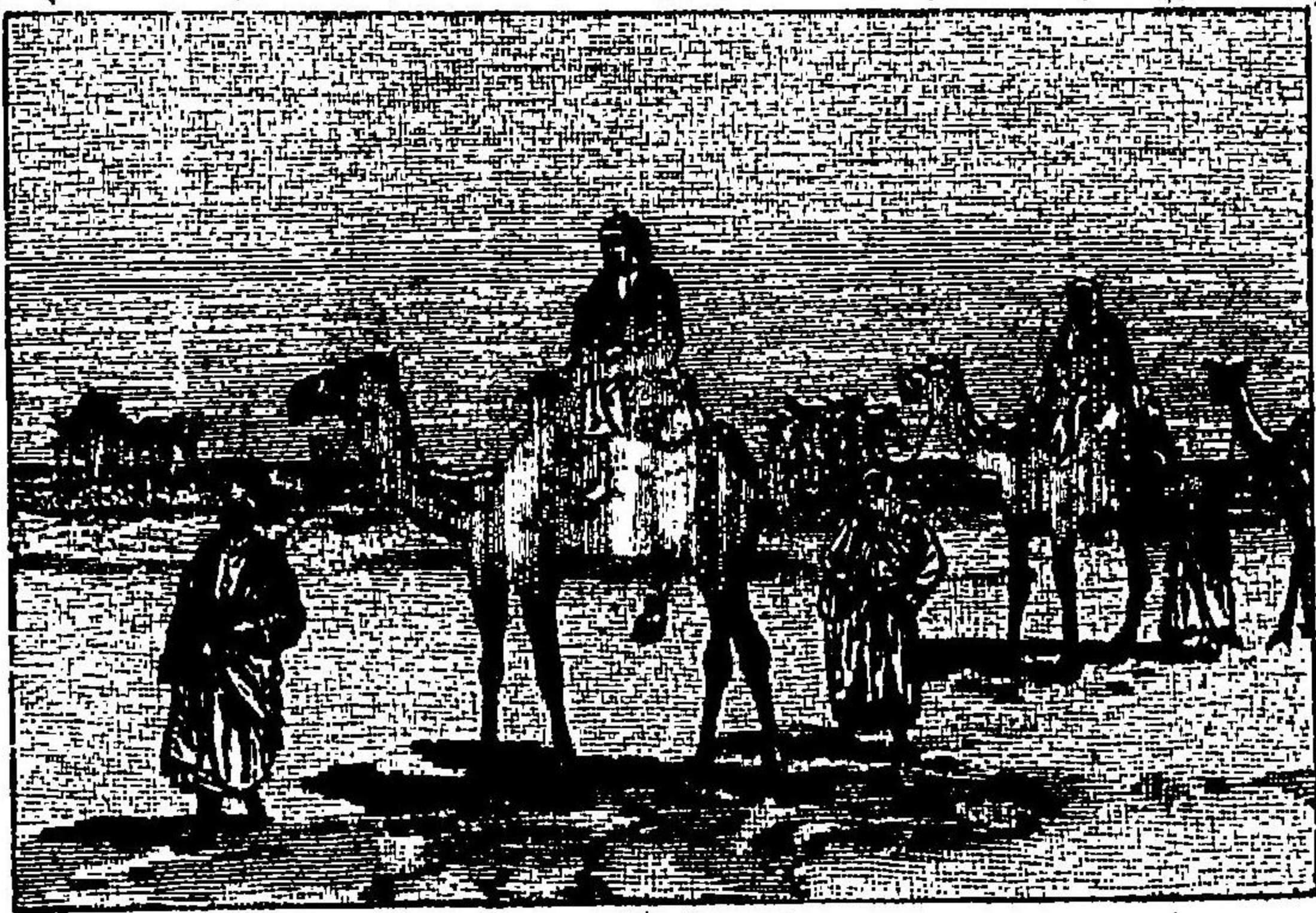
湖沼は、各地に散在して、數ふるに違あらず。其最大なるは、
土耳其斯坦の裏海、アラル海、バルカシユ湖、西比利亞のバ
イカル湖等にして、皆鹹水なり。裏海は、世界第一の大湖に
して、幅員二萬二千餘方里あり。

沙漠

本洲には、中央部より西部に亘りて、戈壁、波斯、亞拉比亞等
の沙漠相連れり。此沙漠帶は、遙に亞非利加の沙漠と相連
れるものゝ如し。

第四 氣候

溫度



亞拉比亞沙漠

雨量

の健康に適せざる地あり。又雨量は、沿海の地方に多くし

本洲は、北寒帶より南熱帶に涉
れるが故に、其氣候は、各地方に
於て差異多し。即ち北部は、沍寒
にして、一年の大半は、海陸とも
に冰雪に鎖され、南部は、炎熱甚
しくして、終歲霜雪を見ること
なし。中央部は、概ね溫暖なれど
も、高原に至りては、寒暑共に酷
烈なり。殊に馬來群島は、熱帶の
中心に位し、炎熱甚しくして、人

て、山間の地方に少く、沙漠は大抵降雨なし。

第五 産物

世界天
産物の
蒐集場

本洲は、各地の氣候と地味とに甚しき差異あるを以て、諸種の産物に富めり。即ち本洲を指して、世界天産物の蒐集場と稱するも不可なきが如し。

植物

植物は、兩印度れよび支那の東南部地方に最も能く繁殖し、米・麥・果物・麻・綿・茶・珈琲・桑・藍・罌粟等の農産物、椰樹・檳榔樹・諸香木・松・杉等の良材を出すこと多し。波斯・亞拉比亞地方は、沙漠不毛の土地廣し。西比利亞は、南境一帶森林に富めりと雖も、其域内は概ね荒蕪に屬し、其北岸は、全地唯蘚苔の類を生ずるに過ぎず。馬來群島は、雨露の潤多く、土地肥

動物

沃なるを以て、植物能く繁殖し、甘蔗・珈琲・煙草・藍・米・茶・果物等の農産物れよび黒檀・白檀・蘇木等の良材に富めり。

礦物

動物は、牛・馬・鶏・犬を始め、諸種の鳥獸・蟲・魚甚た多し。中には、印度の獅子・象・虎・猩々・鱒魚・毒蛇・孔雀、沙漠地方の駱駝、西比利亞の馴鹿・海豹等を特産とす。又馬來群島には、水牛・鸞鳥・鹿・猩々等の動物多し。礦物は、烏拉山脈中の金・銀、阿爾泰山脈中の銅・鐵、石炭、馬來半島の錫、西比利亞・土耳其の鉛、支那印度の鐵・石炭、印度の金剛石、錫蘭島・波斯の眞珠、日本の銅・石炭、ボルネオの金剛石、瓜哇の硫黃等最も著名なり。

第六 人種

本洲の住民は、モンゴリア・カウカシア・マレイの三種屬あ

モンゴ
リア
カウ
シカ
マシ
の
種
三人

り其東北部に住する日本人朝鮮人支那人土耳其人西比利亞人等は皆モンゴリア種に屬し西南部に住する印度人波斯人亞拉比亞人等はカウカシア種に屬すマレイ人種は馬來半島れよび馬來群島に住す又馬來群島の内地には數多の土蕃あり。

第七 宗教

本洲は世界の五大宗教開基の地にして其教法各地に流布せり之を大分すれば佛教は本洲の東北部地方即ち我國及び後印度前印度支那朝鮮に行はれ回々教は亞拉比亞土耳其阿富汗斯坦波斯等の西部諸國及び馬來群島に弘まり婆羅門教は専ら前印度に盛にして耶蘇教猶太教

五大宗
教開基
の地

本洲の
諸國の

は是等諸國の間に行はる。

第八 邦制

本洲に列せる國は日本朝鮮支那亞細亞露西亞前印度後印度阿富汗斯坦皮路直斯坦波斯亞拉比亞亞細亞土耳其とす支那は支那本邦滿洲蒙古西藏新疆省に分れ亞細亞露西亞は西比利亞西土耳其斯坦トランスカウカシアに分れ後印度には安南東京佛領交趾支那東蒲塞暹羅上緬甸下緬甸マラツカ英領海峽殖民地あり。馬來群島は之を大別して四部となす即ち大スンダ諸島小スンダ諸島マラツカ諸島及び比律賓諸島是なりスマトラ瓜哇ボルネオセレベス等は大スンダ諸島の中にあ

國勢

り。呂宋・ミンダナオは、比律賓諸島に屬せり。此中にて獨立の國は、日本・朝鮮・支那・暹羅・波斯の五國のみ。西比利亞及び中亞細亞即ち西土耳其斯坦等は、露西亞に併せられ、後印度は、暹羅の外は、英吉利・佛蘭西に屬し、前印度は、殆ど英國の版圖に歸したり。其他阿富汗斯坦・皮路直斯坦・亞拉比亞等は、國內分裂して、或は酋長の支配に屬し、或は他國の保護を受く。又大スンダ諸島・小スンダ諸島及びマラツカ諸島は、概ね和蘭に屬すれども、往々英吉利・葡萄牙の殖民地を雜へ、比律賓諸島は、米國に屬せり。

第九 都會

本洲の都會は、日本に三府・五港あり。支那に北京・天津・上海・

日本及支那の都會

朝鮮及西亞の都會

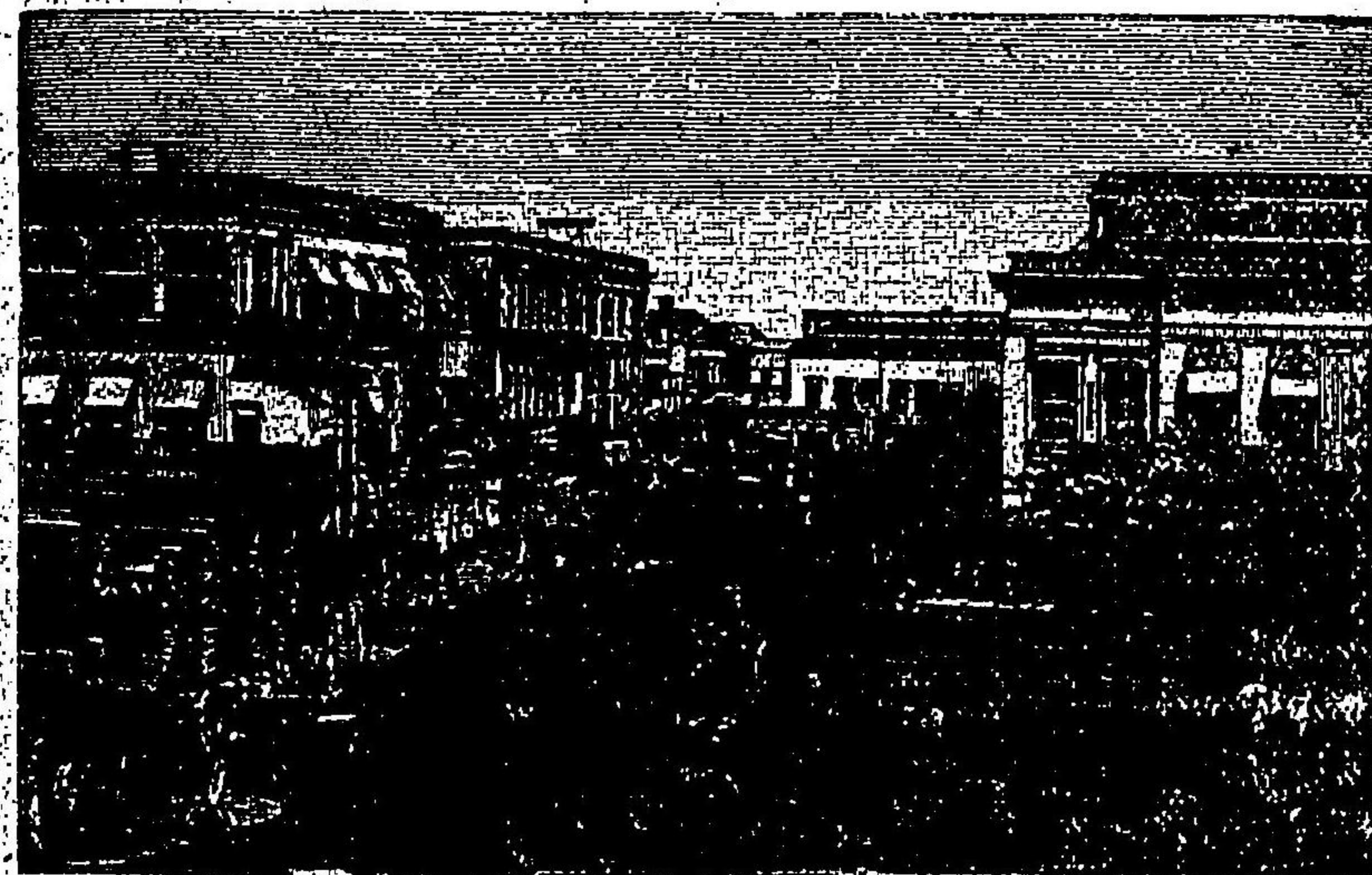
廣東あり。北京は帝都にして、天津・上海・廣東は、繁盛の貿易港たり。廣東の南なる海上の小島に、香港あり。今は英國の領地にして、東洋貿易の要港たり。朝鮮には、首府京城の外に、仁川・釜山の兩港を、最も繁華なりとす。釜山は、日本の對馬と、海峽を挾みて相對せり。西比利亞の都會を、トボルスク・イルクーツクと稱す。是等は、皆政廳所在の地なり。浦潮斯德は、其東海岸唯一の要港にして、殊に日露貿易の盛に行はるゝ所なり。然れども、冬季にいたれば、港内氷に鎖されて、數日の間船舶を通せず。

後印度に在りては、安南の都府をフイエと云ひ、佛領交趾支那の要港を、サイゴンと云ふ。サイゴンは、米の輸出を以

後印度の都會

て有名なり。マンダレーは、上緬甸の首府にして、ラングーンは、下緬甸の國都なり。新嘉坡は、新嘉坡島にあり。英領海峽殖民地の要港にして、東西航路の衝に當れり。

カルカッタ、マドラス、ボンベールは、前印度の三大都會にして、商業頗る隆盛なり。殊にボンベールは、綿花の貿易甚だ盛にして、我國の紡績絲は、其原料を多く此



カルカッタ市街

前印度の都會

地に仰けり。錫蘭島には、佛祖釋迦の舊蹟多くして、參詣者常に其踵を絶たず。此島の首府をコロンボと云ふ。船舶の多く寄泊する所なり。

西諸國の都會

阿富汗斯坦に、カブール及びカンダハール等の都會あり。皮路直斯坦には、ケラツトあり。波斯には、首府テヘランの外、尙はタブリーズ、イスパハン等の都會あり。亞拉比亞のメツカ及びメチナは、回々教の靈地として、其名世に聞ゆ。亞細亞土耳其には、スミルナ、ブルツサス、クタリ等の都會あり。又シリア地方には、基督史上に顯著なる名邑多し。

馬來群島の都會

馬來群島には、呂宋のマニラ、瓜哇のバタヴィア、スマトラのパレンバング、セレベスのマツサル等あり。中にも、マニ

陸地の交通

西比利亞鐵道



マニラ市街

ラは、煙草、麻等の貿易盛に行はれて、人口二十餘萬を有す。

第十 交通

本洲は、陸地の交通未だ盛なるに至らず。鐵道、電信、郵便等の制度は、我日本と前印度地方との外は、尙ほ未だ完備せざる處多し。然れども、西比利亞には、現今西比利亞鐵道を布設しつゝあり。是は浦潮斯德より、露西亞の

國都聖彼得堡に達する鐵道なり。

電信 海上の交通

電信は、我國の長崎より、支那の上海、香港を経て、印度に至り、うれより西部亞細亞を過ぎて、歐羅巴に達す。海上の交通には、諸種の船舶ありて、各國諸港の間を往復し、頗る便利なり。我國より、歐洲に航行するには、先づ横濱或は長崎を出帆して、支那の上海、香港に寄港し、うれより、サイゴン、新嘉坡を経て、コロンボ及びアデンに達し、紅海に入り、蘇士運河を通過して、歐洲に至るなり。又横濱より東に航すれば、亞米利加洲に達し、香港より南に行かば、南洋諸島を経て、濠斯太刺利亞に達することを得べし。是等の諸航路には、各定期出帆の郵便船ありて、物貨の運漕、旅客の來往頗る繁盛なり。

第十一 生業

農業

本洲の東南部地方は、農業盛に行はれて、多額の米穀を産出す。中にも、印度の如きは、氣候炎熱に、土地肥沃なるを以て、米穀は、一年に兩度の收穫あり。西北部地方の住民は、概ね遊牧を事とし、水草を逐ひて、牛馬羊豚を飼養するもの多し。

遊牧

製造業

製造業は、其國の開明の度に應じて、盛衰あり。故に此業に従事せるは、概ね開明國の人民なり。即ち日本・支那等にては、陶器・漆器・其他種々の美術品を製し、又生絲・茶等を製出す。印度にては、綿絲・阿片を製し、波斯は、煙草の産額多く、西比利亞は、製革に巧なり。

第十二 沿革

本洲は、世界の中にて、最も古代より開けたる土地にして、人類の始て蕃殖したりしは、實に其西部地方に在りと云ひ、各國人民の尊信せる各宗教の教祖も、また皆本洲より出でたるなり。ことに、支那・印度・波斯等の國々は、數千年前既に開明に赴きて、世界に威勢を振ひしことあり。然るに、今は世運一變して、我日本帝國の外は、諸國の國勢頗る衰へて、動もなれば、歐米國人に凌辱せらるゝに至る。誠に歎すべきことならずや。

馬來群島は、今を距る數百年前、西班牙・葡萄牙・和蘭等の航海者の發見したる所なり。其後、是等の諸國人續々入り來

馬來群島の變遷

國勢の衰微

世界の古國

教祖の本地

人類の生地

りて、或は貿易を試み、或は宗教を傳へ、種々の手段によりて、次第に勢力を得、遂に土人を服従せしめて、其屬國となしたり。比律賓諸島は、もと西班牙の領地なりしが、近年米國に占領せられぬ。

亞細亞諸邦概表

國名	面積	人種	人口	政治	宗教
日本	三七〇、三〇〇	蒙古種	四三、三三〇、〇〇〇	立憲君主	神道、佛教、儒教、基督新教
朝鮮	三、八〇〇	同	一〇、五〇〇、〇〇〇	君主專制	儒教、佛教、羅馬加特力教
支那	七、六〇〇	同	四〇七、〇〇〇、〇〇〇	同	儒教、佛教、道教、基督新教、羅馬加特力教、回教、喇嘛教
露領	一、一〇〇、〇〇〇	蒙古種	三三、六〇〇、〇〇〇	露領	希臘教、回教、蕃教
前印度	三、三〇〇	高加索	二、八七、三三〇、〇〇〇	英領	佛教、婆羅門教、回教、羅馬加特力教、蕃教

安南	三、六〇〇	蒙古種	六、〇〇〇、〇〇〇	佛領	佛教、儒教
東京	三、七〇〇	蒙古種	三、〇〇〇、〇〇〇	佛領	佛教
交趾支那	三、九〇〇	馬來	二、〇三〇、〇〇〇	佛領	佛教
東瀋	七、七〇〇	同	一、五〇〇、〇〇〇	佛領	佛教
暹羅	三、三〇〇	高加索	五、〇〇〇、〇〇〇	君主專制	佛教
上緬甸	四、五〇〇	蒙古種	七、六〇〇、〇〇〇	英領	佛教、婆羅門教
阿富汗斯坦	三、六〇〇	高加索	四、〇〇〇、〇〇〇	君主專制	回教
皮耳直斯坦	一、七、八〇〇	高加索	一、〇〇〇、〇〇〇	君主專制	回教
波斯	一、五、五〇〇	同	九、〇〇〇、〇〇〇	君主專制	回教、猶太教
亞拉比亞	二〇一、八〇〇	高加索	三、〇〇〇、〇〇〇	酋長政治	回教
亞細亞土耳其	一、三〇〇	蒙古種	一、九七〇、〇〇〇	佛領	猶太教、回教、基督新教
馬來群島	一、四、七〇〇	馬來	二、五〇〇、〇〇〇	英領	基督新教、回教、蕃教
比律賓諸島	一、九、三〇〇	同	九、五〇〇、〇〇〇	米領	基督新教、羅馬加特力教

第三章 阿西亞尼亞洲

第一 位置

阿西亞尼亞洲は、濠斯太刺利亞大陸を首とし、印度洋の東邊より、太平洋中に散布する無数の島嶼の總稱にして、是をオーストラリア・ミクロネシア・メラネシア・ポリネシアの四部に分てり。其面積は、大約五十餘萬方里にして、人口は、一千餘萬あり。北緯凡る二十五度より起り、南緯五十五度に至り、東經凡る百十五度より起り、西經百三十五度に達す。

四大區
分表及
人口

第二 海岸線

本洲は、大小數千の島嶼より成れるを以て、其海岸線は、一

々之を記するに違あらず。濠斯太刺利亞は、其周圍凡る三千餘里あれども、其海岸は出入極て少しとす。

第三 地勢

山脈
濠斯太刺利亞は、東海岸に一帶の山脈あり。其山勢峻峻にして、濠斯太刺利亞のアルプスと稱す。其他の海岸も、概ね高地にして、内部に入るに随ひ、漸く低下し、其中央にいたれば、一大平原を爲せり。此低平なる部分は、地味一般に悪しくして、草野と沙漠との相雜りたる荒地なり。之に反して、東部と南部との海岸には、沃土甚た多しとす。

火山島
珊瑚島
ポリネシア及び其他の諸島は、火山にあらざれば、珊瑚蟲の作用に因りて出現したるものなり。其火山島には、高地

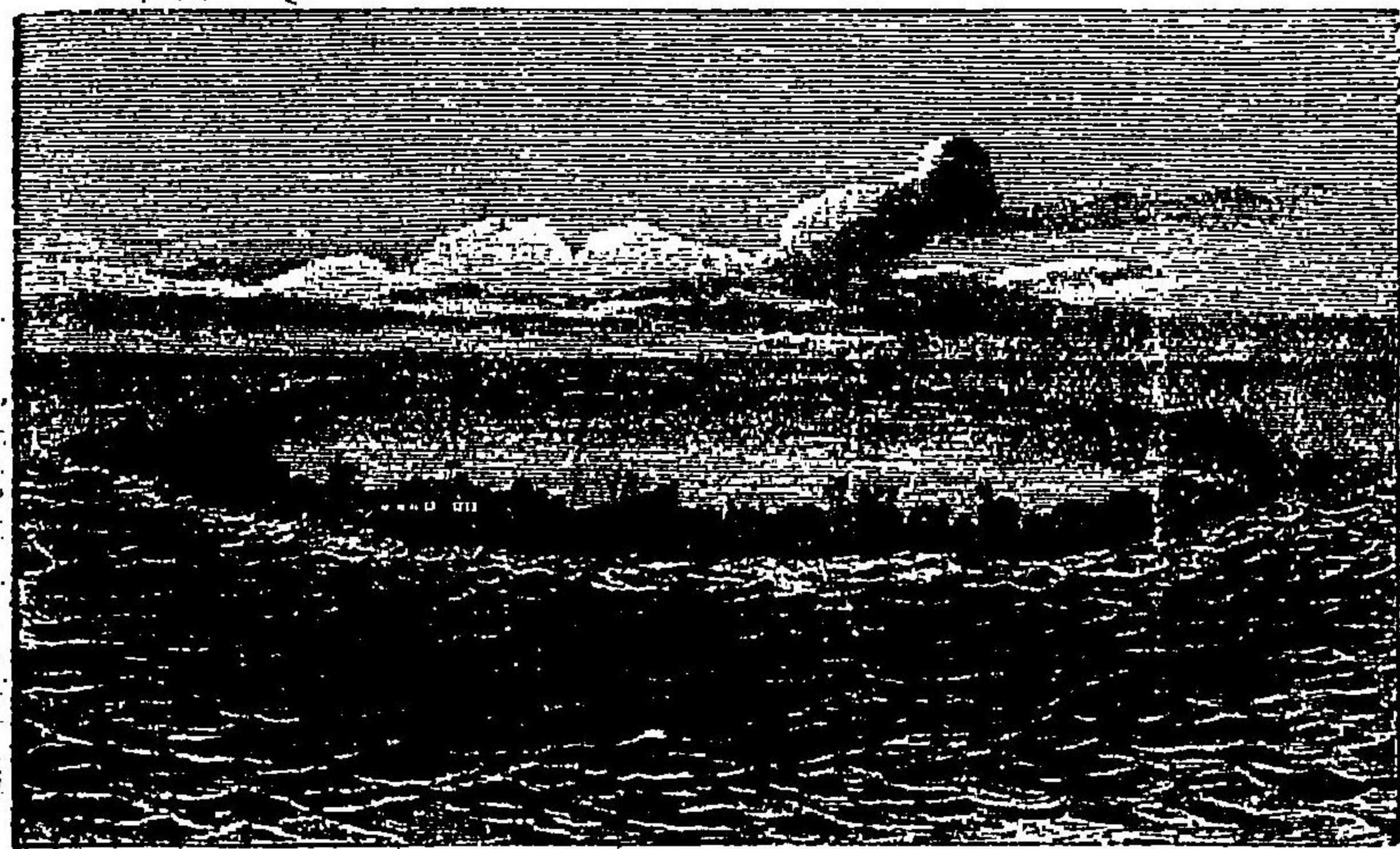
河流

あれども、珊瑚島は皆低地なり。本洲には、河流の大なるものなし。濠斯太刺利亞のムルレー河を、洲中の大河と稱すれども、其長さ四百餘里に過ぎず。

第四 氣候

溫度

本洲の氣候は、各部に於て甚じき差異あり。濠斯太刺利亞は、中部以北は、酷熱なれども、南部は溫和なり。ポリネシア諸島は、海水と海風との調和によりて、他



珊瑚島

雨量

の熱帶地方の如くに暑熱烈しからず。總て熱帶地方は、雨量の多きを常とすれども、濠斯太刺利亞の中央部は、空氣乾燥して、二三年の間、降雨殆どなきことあり。

第五 產物

濠斯太刺利亞の動物植物の鑛物

濠斯太刺利亞は、農產物に小麥・玉蜀黍・葡萄・甘蔗・米・果物等あり。又椰子・護謨等の林產も少からず。動物には、袋鼠・鴨嘴獸・食火鶏・長尾驢等の如き珍奇なるものあり。鑛物はことに豊饒にして、濠洲の黄金の如き、其名世に著し。近時は、一個年の採掘高五千萬圓に達すと云へり。其他銅・鐵・石炭等もまた盛に產出す。

メラ子
シアの
産物

メラ子シアは、植物能く繁茂し、米・甘薯・椰子・芭蕉等あり。又海參・眞珠貝・砂糖等を産す。

ポリ子
シアの
動物
植物

ポリ子シアは、煙草・珈琲・甘蔗の耕作に適し、又天生の麵包ありて、土人の常食に供せらる。魚介・藻類の水産も亦少からず。

第六 人種

濠洲の
土人

馬來人
種別
派の諸
其他諸
國の土
人

濠斯太刺利亞の土人は、矮軀無智の劣等人種なりしが、英國人の移住したりと以來、其數次第に減じて、今は僅に數萬を餘せるのみ。ポリ子シア諸島の土人は、馬來人種の別派にして、野蠻の状態を脱せざるもの多し。其中なるサンドウィッチ島の住民は、稍開化したれども、近年移住外人

回々教
蠻教

本洲の宗教は、區々にして一樣ならず。馬來人種は、回々教を奉じ、又多少耶蘇教に歸依するもあり。土蕃は種々の蠻教を奉ず。

第七 宗教

の増加するに隨ひて、固有の土人は漸く其數を減じ、今は僅に三萬餘に過ぎず。メラ子シアの土人は、黑人種中のパプア族にして、ミクロ子シアの土人は、メラ子シア種と、パプア種との雜種に屬し、いづれも未だ開明の域に進まず。

第八 邦制

區劃
濠斯太
刺利亞

本洲は、濠斯太刺利亞・メラ子シア・ミクロ子シア・ポリ子シアの四部に大別せらる。濠斯太刺利亞は、印度洋の東、太平

メラ子
シア

ミクロ
子シア
ポリ子
シア

各部の
形勢

洋の西南にある大陸にして、其東南にタスマニア・ニュー
 ジーランドの諸島あり。ニュー・ジーランドは南北二島よ
 り成る。メラ子シアは濠斯太刺利亞の北にあり。其中の新
 幾内亞島は、一にパプアといひ、面積凡る五萬餘方里あり
 て、世界の最大島中に數へらる。之に次ぎて大なるものをニユ
 ーカレドニアとす。ミクロ子シアは、更に其北にある島嶼
 の總稱にして、何れも皆小さく、ポリ子シアは、東部に散布
 せる無數の小群島にして、其中サンドウイッチ・フィジー
 一等を其主なるものとす。サンドウイッチは、即ち布哇に
 して、大小八箇の島より成れり。
 本洲は、全土概ね歐洲諸國の領地にして、獨立國と稱すべ

濠洲の
都會

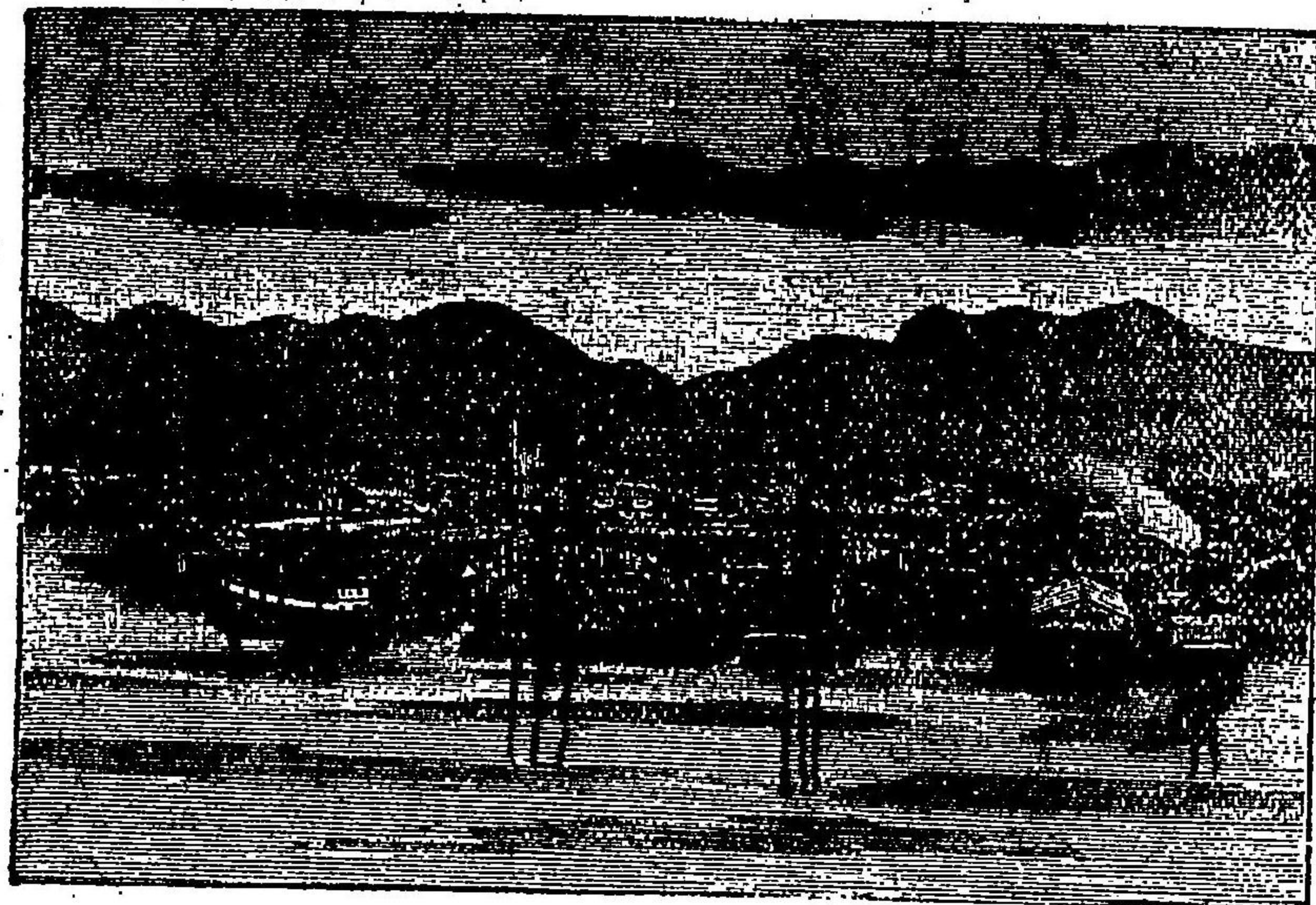
ポリ子
シアの
都會

きものなく、唯、僅に土人の小部落をなせるもの數箇ある
 のみ。濠斯太刺利亞は、殆ど英國に屬し、メラ子シアは、和蘭
 獨逸等に分轄せらる。ポリ子シアは、英佛諸國に領せられ、
 其中の布哇は、もと獨立の王國なりしが、近年共和政に改
 め、尋て合衆國に併せられたり。

第九 都會

本邦の都會は、濠洲にメルボーン・シドニーの兩都府あり。
 此兩府ともに、人口凡る四十萬を有せり。其他アデレード・
 ブリスベーン・ペアールドも、繁華の都會なり。タスマニア
 の首府をホーバールトと云ひ、ニュー・ジーランドの首府
 を、オークランドと云ふ。ポリ子シアには、布哇島のホノル

水運の便
濠洲の陸上交通



ルの外、都會と稱すべきものなし。ホノル、は、オアフ島にあり。太平洋中の要津にして、人口三萬餘あり。

第十 交通

本洲は、何れの部も、皆海國なれば、水運の便は甚だ多し。濠洲は、陸上の交通も、よく開けたり。其メルボルン、シドニーの兩府を起點として、各地に鐵道を通じ、又郵便、電信等の

設備も略整ひたり。

第十一 生業

住民の生業は、土地の状況に由りて、其趣を異にすれども、土人は、概ね耕作、漁獵を以て、生業と爲せり。然れども、無智にして貯蓄心に乏しく、業務に勤勉なるもの甚だ稀なり。之に反して、歐羅巴より移住したる白人種は、農業および商工業に従事して、専ら土地の開拓を務む。故に洲内に於ける百般の事業は、悉く移住民の手裡に歸せり。殊に濠洲にては、採鑛、牧羊の業大に進歩し、金及び羊毛の輸出頗る多し。布哇は、甘蔗の栽培、製糖の業甚だ盛にして、我國よりの移住民は、現今三萬人に餘りて、何れも此等の業に従事

耕作漁獵

農業及び商工業

採鑛牧羊製糖業

せり。

第十二 沿革

濠斯太刺利亞大陸は、葡萄牙人始て之を發見し、尋て和蘭人渡來したりけれども、開拓に着手せずして去れり。其後、英國人の牧畜を試むるものありたりしが、金坑、石炭坑等の發見せられてよりは、同國人の移住するもの頓に増加して、遂に今日の盛況を呈するに至れり。ニュージールランド及びポリネシア諸島は、有名なる英國の航海者クック氏の發見したる處多しと云へり。

布哇は、もと土人の建設せし一王國にして、近年大に移住民を招徠したりしが、我國とは、明治四年に於て、始て通商

濠洲大陸の發見及び歐洲人の移住

クック氏の發見

布哇の變遷

條約を締結し、同十七年、更に移民條約を定めたり。是より我國民の渡航する者、次第に多くなるに至りぬ。後國內に革命起りて、國王を廢し、共和政府を建てしが、明治三十一年に至りて、遂に北米合衆國に合併したり。

阿西亞尼亞諸邦概表

國名	面積	人種	人口	政治	宗教
濠洲大陸	四九四,〇〇〇 <small>方里</small>	高加索、馬來、蒙古	三,五〇〇,〇〇〇 <small>人</small>	(英領)	基督新教、蕃教、羅馬加特力教
タスマニア	四,四〇〇	高加索、馬來	一五三,〇〇〇	(英領)	基督新教、蕃教、羅馬加特力教
ニューシールランド	一七,五〇〇	高加索、馬來	七三三,〇〇〇	(英領)	基督新教、羅馬加特力教
バプア	六七,二〇〇	バプア黒族	九〇〇,〇〇〇	(和蘭領)	基督新教、回々教、蕃教
サンドウヰ井ツナ	一一〇〇	高加索、馬來、蒙古	一〇,〇〇〇 <small>(内日本人凡そ三〇,〇〇〇)</small>	(亞米利加合衆國に合併す)	基督新教、羅馬加特力教、猶太教、モルモン宗

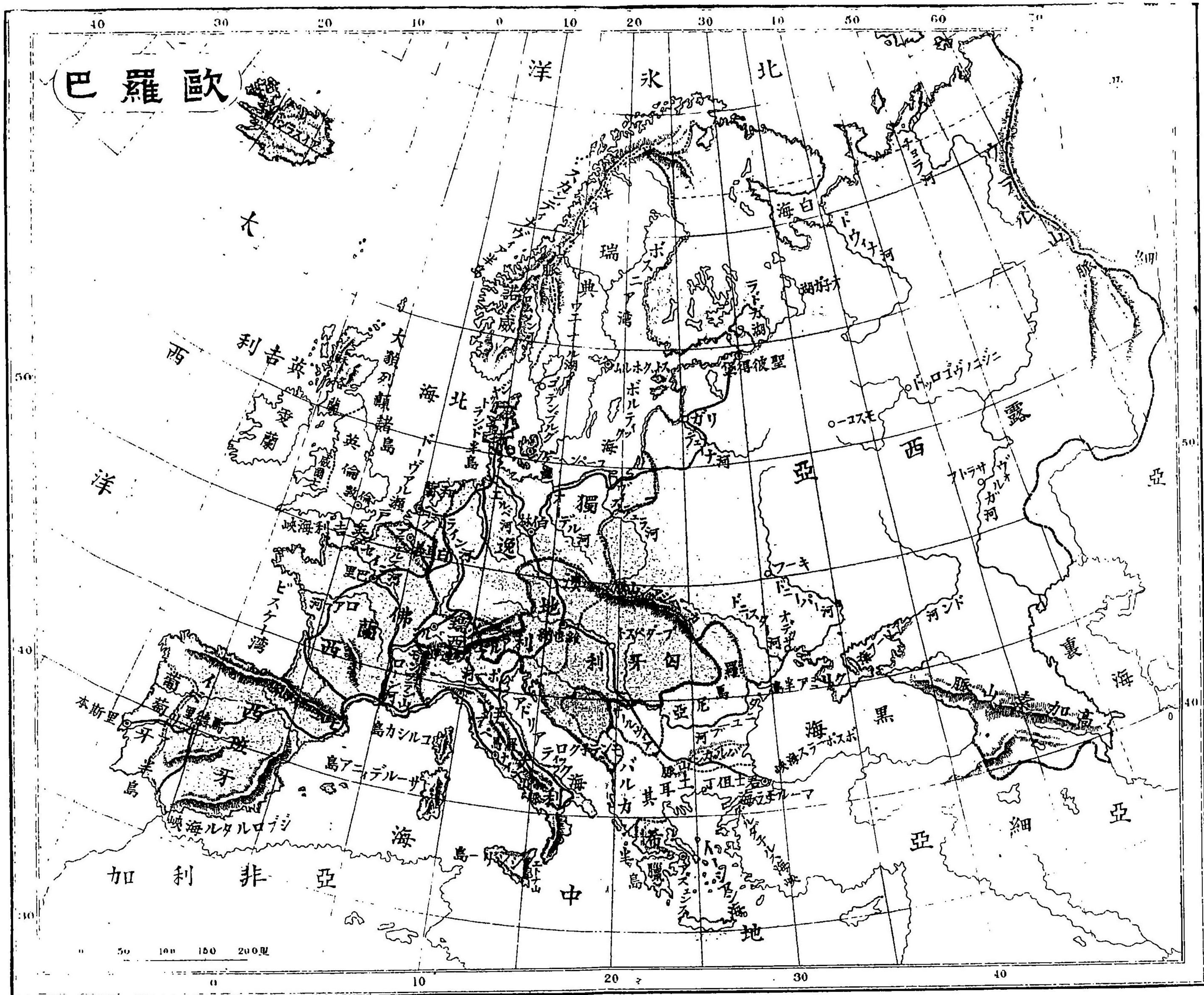
第三章 歐羅巴洲

第一位 置

境域

歐羅巴洲は、東半球の西北部に位し、北は北氷洋に臨み、西は大西洋に面し、南は地中海を隔て、亞非利加に對し、黒海れよび高加索山脈によりて、亞細亞に接し、東は烏拉山脈れよび裏海によりて、亞細亞と界す。北緯三十六度より七十一度に至り、西經九度半より東經六十五度に至る。東西長さ所凡そ一千四百餘里、南北廣き所凡そ一千餘里、面積六十三萬八千餘方里にして、人口三億六千餘萬を有す。土地の面積は、六大洲中最も小さけれども、人口の多きことは亞細亞洲に次けり。

廣袤及
び人口



歐羅巴

北冰洋

大西洋

英吉利

北海

獨逸

亞細亞

西亞

露西亞

裏海

黑海

亞非利加

地中海

亞細亞

細亞

亞細亞

50 100 150 200里

海島及海峽
半島

第二 海岸線

本洲の海岸線は、屈曲多くして、其延長無慮八千里に達せり。其海灣・半島等の著しきものを擧ぐれば、北の方、北氷洋に向へる所に白海あり。西の方には、瑞典、挪威王國より成れるスカンディナヴィアの半島突出し、ジャツトランド半島と相對して、ボルチック海を抱けり。大貌列顛諸島と大陸との間にある海を、北海又は日耳曼海と稱す。其南に英吉利海峽あり。其最も狭き處を、ドーヴァルの瀬戸と稱へ。英佛兩國間の渡船場とす。西班牙、葡萄牙の兩國は、古來イベリア半島と稱へ、北にビスケー灣を控へ、東南に地中海を帶べり。其南端に、有名なるジブロルタルの海峽あり。

亞非利加洲と相對して、地中海の門戸をなせり。地中海に入りては、中央に伊太利半島あり。其東に深く彎入するを**アドリアチック海**と云ひ、東部に突出せるを、**バルカン半島**と云ふ。其東は、**イージアン海**即ち多島海なり。其東北隅なる**ダールダ子ルス海峽**を入れは、**マイルモラ海**にして、**ボスポーラス海峽**を以て、黒海と相通ず。黒海の沿岸は、稍單趣にして、**アゾーフ海**の彎入と、**クリミア半島**の突出とあるのみ。

本洲に屬せる島嶼の大なるは、大貌列顛諸島を第一とし、**氷洲・コルシカ・サールデイニア・シシリ**等之に次けり。

第三 地 勢

島嶼

歐洲平原
イワルタ
日耳曼
の沿岸
低地

山脈

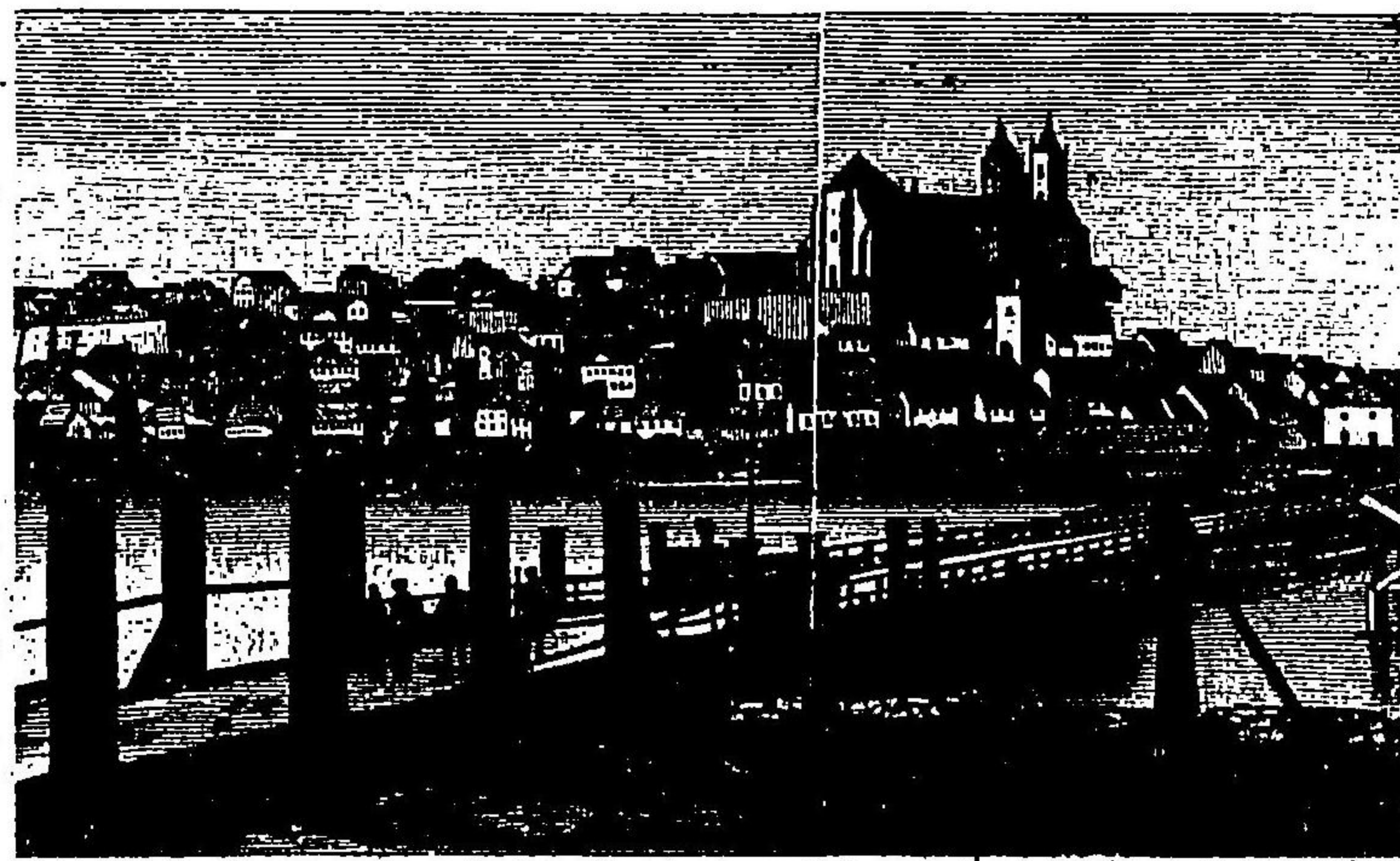
本洲の地勢は、南部に於て山岳連亘し、中央以北は概ね低平にして、一望千里の大平原を爲せり、之を歐洲平原と稱す。但し**ワルタイ**と云へる一帶の岡陵ありて、地勢稍隆起すれども、漸々西下して、日耳曼海の沿岸に至れば、堤防を築きて、海水の侵入を防ぐ所多し。

本洲の山脈は、南部に有名なる**アルプス連山**あり。此連山は、佛蘭西の東境に起り、東に走りて、瑞西及び澳地利に入り、南に折れて、遙に**バルカン山脈**に連る。其主峰**モンブラ**ンは、高さ一萬五千餘尺に達せり。**アペナイン山脈**は、**アルプス**の支脈にして、南に出でて伊太利半島を貫く。**カールペシアン**は、匈牙利の北境に横はれる山脈にして、西南は

河流

アルプス山脈に連り、東南はバルカン山脈に接し、長さ三百餘里に亘れり。又西班牙・佛蘭西の國境に、ピレニース山脈あり。亞細亞洲の境界に、烏拉・高加索の兩山脈あり。高加索は、山勢高峻にして、一萬八千餘尺の高峰を有す。スカンディナヴィア半島に連亘せるキオレシムも、亦有名なる山脈なり。

河流の著名なるは、ヴォルガ・ダニユーブ・ドニール・ドンはなり。是を本洲の四大河と稱す。



橋船の河シイラ

湖沼

す。此諸川は、洲の東部にありて、概ね露西亞の域内に屬す。其他伊太利のポー、佛蘭西のローン・ロアール・セイン、獨逸のライン・エルベ・オーデル・ヴィスチユラ等の諸川あり。

湖沼は、露西亞に、ラドガ・オネガの兩湖あり。瑞典に、ウエーナール湖あり。其他アルプス山中に在る湖沼は、其周圍甚だ大ならざれども、其水清冷にして風景絶佳なり。世にこれをアルプス群湖と稱す。

第四 氣候

溫度及雨量

氣候は、大西洋れよび地中海に向へる地方は、溫暖にして、寒暑の差甚しからず。然れども、内地に入るに隨ひて、寒氣次第に強く、殊に北氷洋に臨める地方は、沍寒にして、全土

を鎖せる結氷、終歲融解することなしと云へり。降雨は、大西洋海岸れよび南部の暖地に多くして、内地に少し。

第五 産物

本洲は、天産物饒多にして、盛に之を産出すれども、地方に因りて、多少の差異なきにあらず。

植物は、南部に、米・綿・橄欖・甘蔗・葡萄等よく繁茂し、中央部に小麥・裸麥・麻・亞麻・甘薯・蔬菜・諸果物を產生す。北部は、一般に松・柏・榆・榛等の樹木を生ずれども、穀類・果物は、風土に適せず。殊に、寒帶地方に至りては、僅に苔蘚と矮小の楊柳とを生ずるのみ。

動物は、猪・鹿・狼・狐・獺・栗鼠・海豹・海馬等あり。猛獸と云ふべき

植物

動物

礦物

ものなし。牛・馬・羊・豚の牧畜は、各地に盛なり。礦物は、鐵・石炭・金・銀・銅・鉛・水銀・硫黃・岩鹽等にして、其採掘極めて盛大なり。

第六 人種

本洲の住民は、概ねカウカシア人種なれども、其經歷の異なるに由り、自らケルツ・テュートン・ラティン・スラヴの四種族を生じ、言語・文章ともに、各種族特有の者を用ふ。佛蘭西人・愛蘭人等は、ケルツ族にして、英吉利・獨逸・和蘭・丁抹・瑞典人等は、テュートン族、伊太利・希臘人等は、ラティン族、露西亞人は、スラヴ族なり。其他カウカシアの別種に、セミチツク派に屬する猶太人、モンゴリア人種に屬する土耳其人

シカウカシアの四種族

及猶太人
アンゴリ

人、匈牙利人等あれども、其數多からず。

第七 宗教

耶蘇教
の三派

本洲に於て、最も盛に行はるゝ宗教は、耶蘇教なり。耶蘇教には、舊教・新教・希臘教の三派あり。舊教は、一に天主教とも云ひ、羅馬法王を教主とし、伊太利人・佛蘭西人等に之を奉ずるもの多し。新教は、教主を立てず。英吉利人・獨逸人等には、之を奉ずるもの多し。希臘教は、露西亞皇帝を教主として、専ら其國內に行はる。其他猶太人は、其固有の教義を守り、土耳其人は、回々教を信ず。

第八 邦制

列國

本洲に列する國は、英吉利・佛蘭西・西班牙・葡萄牙・伊太利・希

國勢

臘・土耳其・羅馬尼亞・サルヴィア・モンテ子グロ・澳地利・匈牙利・瑞西・獨逸・白耳義・和蘭・丁抹・瑞典・諾威・露西亞とす。此中にて、國力の最も富強なるは、英吉利・佛蘭西・獨逸・露西亞・澳地利・伊太利にして、瑞典・丁抹・白耳義・和蘭・瑞西等之に次ぎ、西班牙・葡萄牙・土耳其は、國運稍衰へたるものゝ如し。又羅馬尼亞・サルヴィア・モンテ子グロ・希臘は、近時土耳其の支配を脱して、獨立したる者にして、國勢尙ほ甚た微弱なり。此諸國の政體は、佛蘭西・瑞西は共和政治、露西亞・土耳其は君主專制、其他は皆立憲君主政體なり。

第九 都會

各國の
首都

本洲の都會は、英吉利の倫敦、繁盛第一にて、佛蘭西の巴里、



府ルプーノチンタスニコ

華麗第一なり。獨逸の柏林、澳地利の維也納、露西亞の聖彼得堡等は、皆其國の首都にして、人口百萬に餘れり。又土耳其の君士但丁、伊太利の羅馬、西班牙の馬德里、葡萄牙の里斯本、白耳義のブラッセル、瑞典のストックホルム、丁抹のコーペンヘーゲン、和蘭のヘーグ、瑞西のベルン、希臘のアズエンス等も、亦其國の首都にして、繁華の都會なり。

其他各國には、有名の都邑少からず。

第十 交通

海上の交通の

陸上の交通の
運河
隧道

本洲は、交通の便最もよく開け、海上諸港の間に、船舶往來の頻繁なるは、言を俟たず。鐵道・郵便・電信の制、各國共に備りて、鐵道の如きは、到る處に敷設せられ、峻坂深谷と雖も、巧に開通せり。ことに、佛蘭西・瑞西兩國の間に於ては、隧道の長さ三里餘に達する所あり。又各地に、運河を通じて、水運の便を開けり。其著名なるは、蘇格蘭のカレドニアン、露西亞のヴォルガ運河等とす。

第十一 生業

本洲は、一般に商工業盛大にして、農業は之に次げり。英・佛

五大工業國

商業國

農業國

千有餘年前の狀態

獨・澳・伊五國は、現今五大工業國の稱あり。其製造品の主要なるは、船艦・銃砲・彈藥・機械・鐵器・硝子・陶器・磁器・時計・彫刻物・綿織物・毛布・葡萄酒・麥酒・砂糖等にして、其産額極て多し。中にも、英國人は、商業に長じて、世界の中、其足跡を印せざる所なく、諸國の開港場を往來して、貿易を行へり。露西亞・丁抹・土耳其等は、農業國にして、其牧畜の盛なるは、本邦人の想像し能はざる所ありと云ふ。

第十一 沿革

本洲は、今より千有餘年前までは、大抵野蠻人の巢窟たる地方なりしが、其形勢自ら交通の便を備へて、氣候溫和に、地味も肥沃なりければ、其人口の繁殖、智力の發達、ともに

世界文明の中心

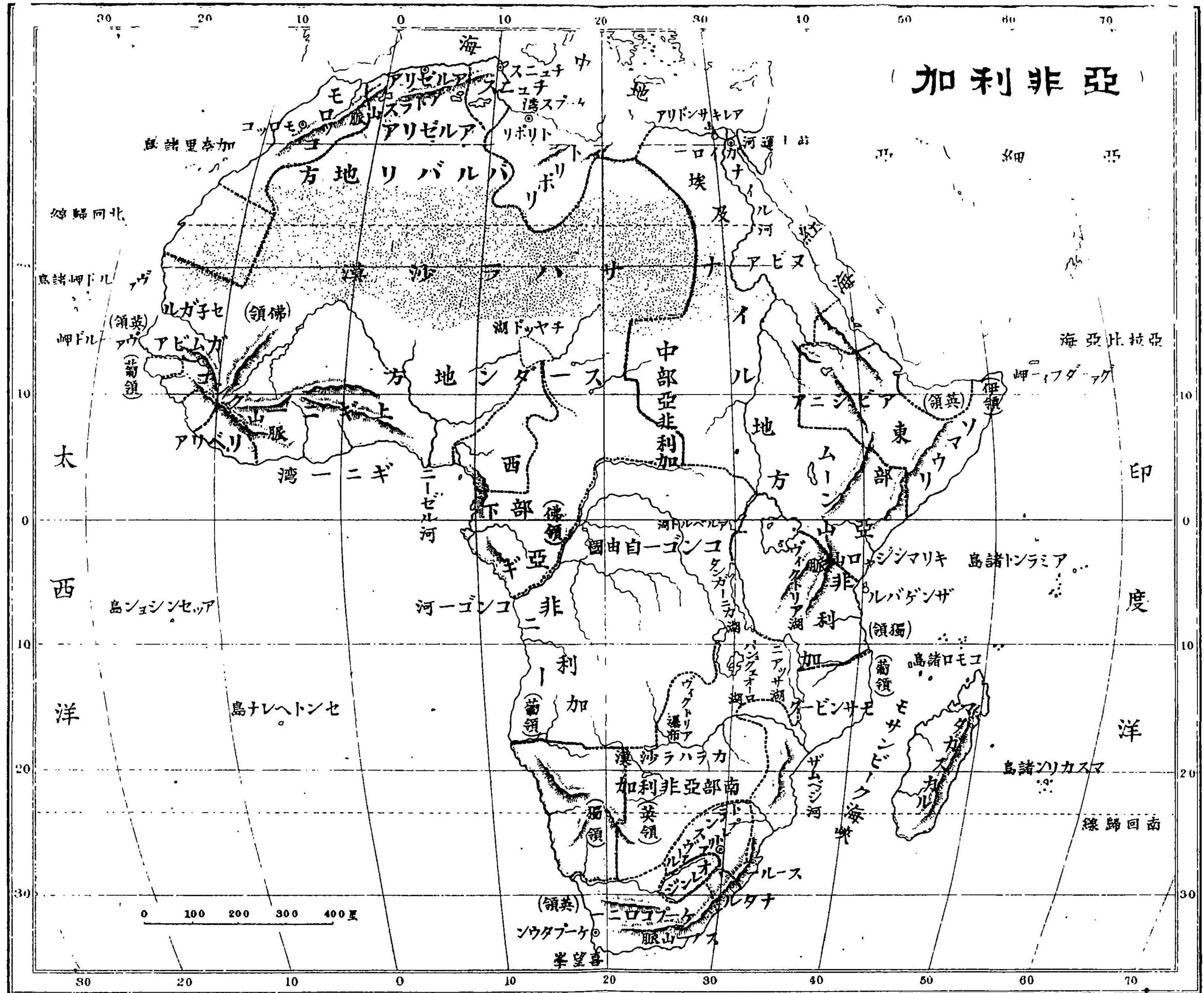
速にして、近代に及びては、學術技藝大に進歩して、世界文明の中心と稱せらるゝに至れり。

歐羅巴諸邦概表

國名	面積	人種	人口	政治	宗教
英吉利	210,300 <small>カ</small>	高加索種 (アリアン派)	38,100,000	立憲合衆王國	基督新教、羅馬加特力教
佛蘭西	393,300	高加索種 (アリアン派)	38,518,000	共和政治	羅馬加特力教、基督新教
西班牙	331,200	高加索種 (アリアン派)	17,556,000	立憲王國	羅馬加特力教、基督新教
葡萄牙	60,500	高加索種 (アリアン派)	5,049,000	立憲王國	羅馬加特力教、基督新教
伊太利	191,200	高加索種 (アリアン派)	31,668,000	立憲王國	羅馬加特力教、基督新教
希臘	42,200	高加索種 混合種	2,444,000	立憲王國	希臘教
土耳其	106,600	高加索種 蒙古種	5,710,000	君主專制 (オットマン帝國と云ふ)	回々教、希臘教
羅馬尼亞	81,000	高加索種 (アリアン派)	5,800,000	立憲王國	希臘教

サールヴイア	三二〇〇	高加索種 (アリアン派)	二、三三〇、〇〇〇	立憲王國	希臘教、回々教、 羅馬加特力教、猶太教
モンテネグロ	六〇〇	高加索種 (アリアン派)	二、三〇〇、〇〇〇	立憲侯國	希臘教、羅馬加特力教、回々教
澳大利	四〇、五〇〇	高加索種 (アリアン派) 蒙古種 (マシヨア族)	四一、三六〇、〇〇〇	立憲聯合帝國	羅馬加特力教、希臘教、 基督新教、猶太教
瑞 西	二、七〇〇	高加索種 (アリアン派) (セルト)	二、九一八、〇〇〇	立憲聯合共和國	羅馬加特力教、基督新教
獨 逸	三、五、一〇〇	高加索種 (アリアン派)	五、三〇〇、〇〇〇	立憲聯合帝國	羅馬加特力教、基督新教、 猶太教
白 耳 義	一、九〇〇	高加索種 (アリアン派)	六、五八七、〇〇〇	立憲王國	羅馬加特力教、基督新教、 猶太教
和 蘭	二、一〇〇	高加索種 (アリアン派)	五、〇〇〇、〇〇〇	立憲王國	羅馬加特力教、基督新教、 猶太教
丁 抹	二、六〇〇	高加索種 (アリアン派)	二、一九〇、〇〇〇	立憲王國	基督新教、 羅馬加特力教
瑞 典 諾 威	四、九、九〇〇	高加索種 (アリアン派)	六、九〇〇、〇〇〇	立憲王國	羅馬加特力教、基督新教、 猶太教
露 西 亞	三、五、二、一〇〇	高加索種 (アリアン派)	一〇六、〇〇〇、〇〇〇	君主專制	天主教(希臘教)

加利非亞



緯線同北

緯線同下

太

西

洋

海亞比拉亞

岬一フダアグ

印

度

洋

緯線同南

0 100 200 300 400 哩

境域

廣袤及
び人口

第四章 亞非利加洲

第一 位置

亞非利加洲は、東半球の西南部に位し、西は大西洋に面し、東は印度洋に瀕し、南は南氷洋に臨み、北は地中海を隔てて、歐羅巴と相對し、北東の一隅は、蘇士の運河によりて、亞細亞に界せり。北緯三十七度二十分より、南緯三十四度五十分に至り、東經五十一度二十二分より、西經十七度三十分二分に達す、其面積は一百九十萬餘方里にして、人口は一億八千餘萬を有す。

第二 海岸線

本洲の海岸線は、屈曲少くして、其長さ六千五百餘里に過

岬灣

ぎず。之を面積に比例する時は、六大洲中最も短きものたり。其岬灣の著名なるは、地中海のトリポリ及びケーブス灣、大西洋のヴァールド岬、ギニー灣、印度洋のグアードフイ岬及び喜望峰とす。喜望峰は、本洲の南端にして、古來有名の岬角なり。今より三十餘年前、蘇士運河の未だ開通せざりし時に在りては、歐洲より東洋に航行する船舶の、必ず迂廻したりし所なり。

島嶼

島嶼の最大なるは、マダガスカルにして、マスカリン諸島と共に印度洋中に在り。又大西洋中に、セントヘレナ、加奈里諸島等あり。セントヘレナは、一世奈破崙の謫せられし地なるを以て、其名世に聞え、加奈里諸島は、カナリイ鳥の

産地なるが故に人に知られたり。

第三 地勢

低地及
高地

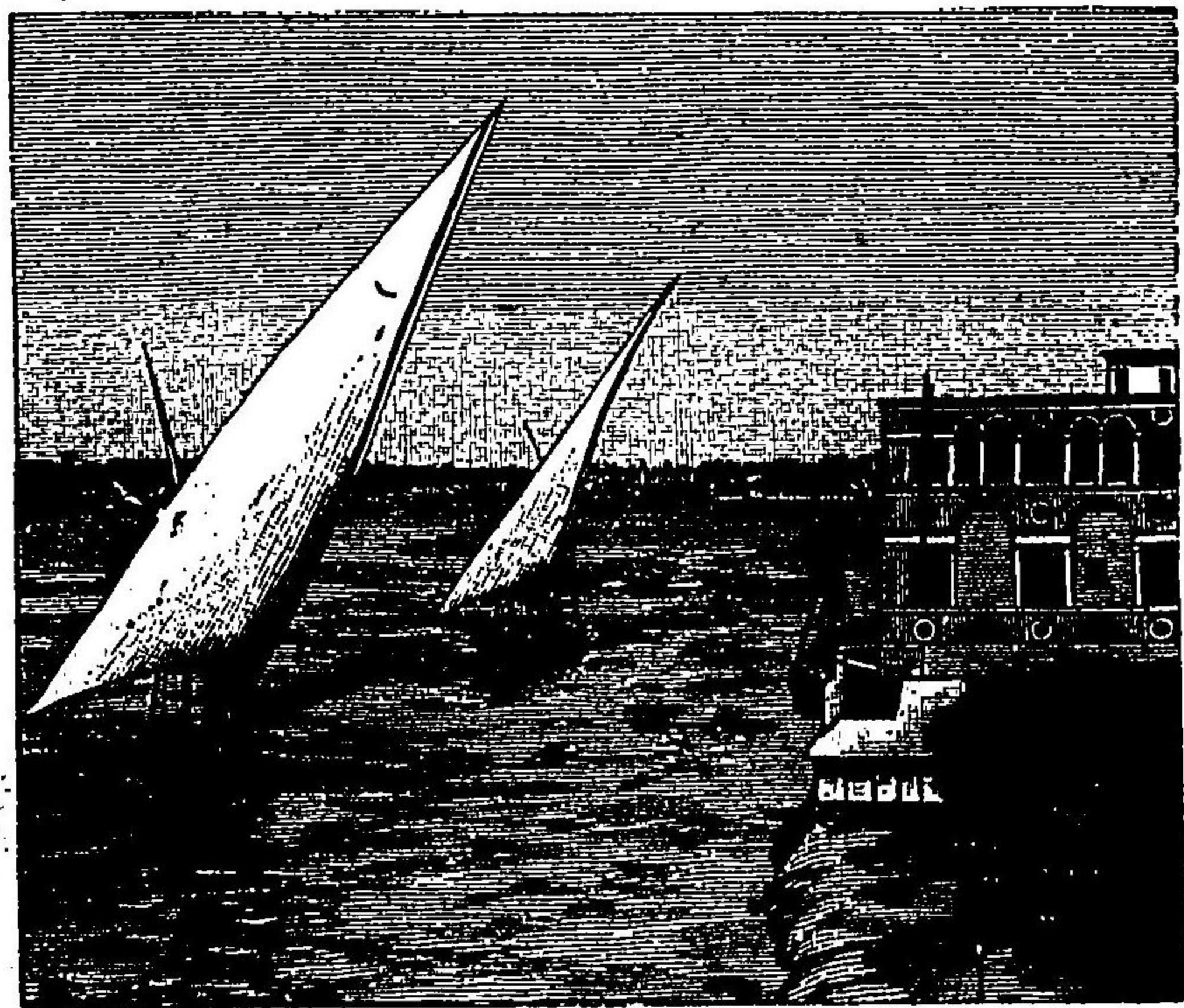
地勢は、海岸に沿ひて山脈を繞らし、内地の北部は、概ね低地にして、往々海面と殆ど平準したる地方あり。中部以南は、概ね高地にして、海面を抜くこと、二千尺より四千尺に達する所少からず。

山脈

山脈の著名なるは、北邊にアトラス山脈あり。西岸にコング山脈あり。南邊に連れるは、スノー山脈にして、東岸に亘れるは、ムーン山脈なり。ムーン山脈中のキリマンジャロ山は、本洲第一の高峯にして、其高さ二萬數千尺に達せり。河流の大なるは、ナイル河を第一とし、ニール・コンゴ！

河流

ザムベジ等の諸河之に次げり。ナイル河は、源をアルベルトヴィクトリアの兩湖に發し、北流して地中海に入る、其流程一千四百餘里あり。獨り本洲に於て、其大を誇るのみならず、東半球中に於ても、最大河と稱せらる。此河は、毎年洪水ありて、上流の泥土を流出して、下流の沿岸に委積し、其地を膏腴ならしむ。ザムベジ河の中流に瀑布あり、ヴィクトリアと云ふ、世界に比類



ナイル河

湖沼

少き大瀑布なり。

湖沼の大なるは、アルベルトヴィクトリア、タンガニカ、バングエオ、ロニアツサ等なり。是等は、皆南部の高地にありて、大河の水源をなせり。北部の平原にあるチャツド湖は、吐口を有せず。

沙漠

沙漠は、北部にサハラあり。南部にカラハリあり。サハラ沙漠は、東西一千六百餘里、南北四百餘里に亘り、世界第一の大沙漠と稱せらる。

第四 氣候

溫度及雨量

本洲の大部分は、熱帯に位せるを以て、暑氣の強きは、世界中に比類なし。然れども、地中海に瀕せる地方と、中央以南高

度の地方は、其暑氣やゝ緩和なりと云へり。降雨は、赤道直下の一帯の地方に多くして、其他の地方には少く、其空氣もまた極めて乾燥なり。

第五 産物

降雨多量の地方には、植物よく繁殖して、椰樹・檳榔樹・棉花等多く、乾燥地方には、一般に波斯棗樹夥し。また米穀・甘蔗・綿麻等の農産物を出せる地方少からず。

動物は、其種類の多く、其形状の奇なる、他の大陸に比類なし。其最も著しきは、河馬・鱔魚・獅子・麒麟・大猿・巨蟒・駝鳥・角馬等にして、駝鳥・角馬は、本洲特有の動物なり。

礦物は、各地より銅鐵・鉛・岩鹽等を産出し、黄金は、南部地方

植物

動物

礦物

に多く、金剛石は、オーレンジ河邊より出づ。

第六 人種

本洲の住民は、概ねエシオピア即ち黑色人種にして、無智蒙昧なり。北部諸國には、カウカシア種のセミチック派に屬する住民あれども、是れ素と他國よりの移住者にして、其數甚た多からず。

第七 宗教

本洲の北部には、回々教又は耶蘇教行はれて、黑色人種の中にも、往々之を信するものあり。然れども、其他の地方に至りては、固有の蠻教ありて、中には、禽獸蟲魚を禮拜するものありといふ。

エシオ
ピア人
種カウ
カシア
種セミ
チック
派

回々教
及耶蘇
教

固有の
蠻教

第八 邦制

區劃

本洲には、整然たる邦制區劃なく。然りと雖も、大別して、**ナイル地方**、**バルバリ地方**、**東部亞非利加**、**南部亞非利加**、**西部亞非利加**、**中部亞非利加**及び所屬諸島の七部とす。

ナイル地方

ナイル地方は、**ナイル河**の流通する地方なり。之を**埃及**、**ヌビア**、**アビシニア**等に分てり。埃及は、歴史上著名の舊國なれども、中古以來、土耳其に屬し、今尙は朝貢の禮を執れり。近時は、英國の干涉を受け、國勢甚た振はされども、盛に歐洲の文物を輸入して、本洲第一の進歩國と稱せらる。**アビシニア**は王國なり。近年**伊太利**の干涉を免れたれども、其國內は、猶ほ統一を缺けるものゝ如し。

バルバリ地方

バルバリ地方とは、北部地中海に沿ひたる地方にして、之を**モロッコ**、**アルゼリア**、**チュニス**、**トリポリ**等に分てり。**モロッコ**は、君主專制國にして、**アルゼリア**は佛國に屬し、**チュニス**は同國の保護を受け、**トリポリ**は土耳其の管轄に屬せり。

東部亞非利加

東部亞非利加は、印度洋に臨める地方なり。之を**ソマウリ**、**ザンゲバル**、**モサンビーク**等に分てり。**ソマウリ**は、英、伊二國に領せられ、**ザンゲバル**は、近來英獨の二國に奪はれ、**モサンビーク**は、葡萄牙國の所領なり。

南部亞非利加

南部亞非利加は、**モサンビーク**より、**喜望峰**を繞りて、**下ギニー**に至る沿岸地方なり。其**ケープコロニー**及び**ナタール**

西部亞非利加

は、英國の殖民地にして、**オーレンジ自由國**・**トランスヴァール**共和国・**スール**共和国は皆獨立國なり。

西部亞非利加は、大西洋の沿岸地方なり。**セ子ガル**は佛國、**ガムビア**は、英國に屬し、**上ギニー**は、概ね英獨兩國の所領なり。**リベリア**は、四五十年前、米國より解放せられたる黒奴の創立したる共和國にして、本洲の進歩國の一なり。下**ギニー**地方は、多くは佛・葡兩國の所領なり。

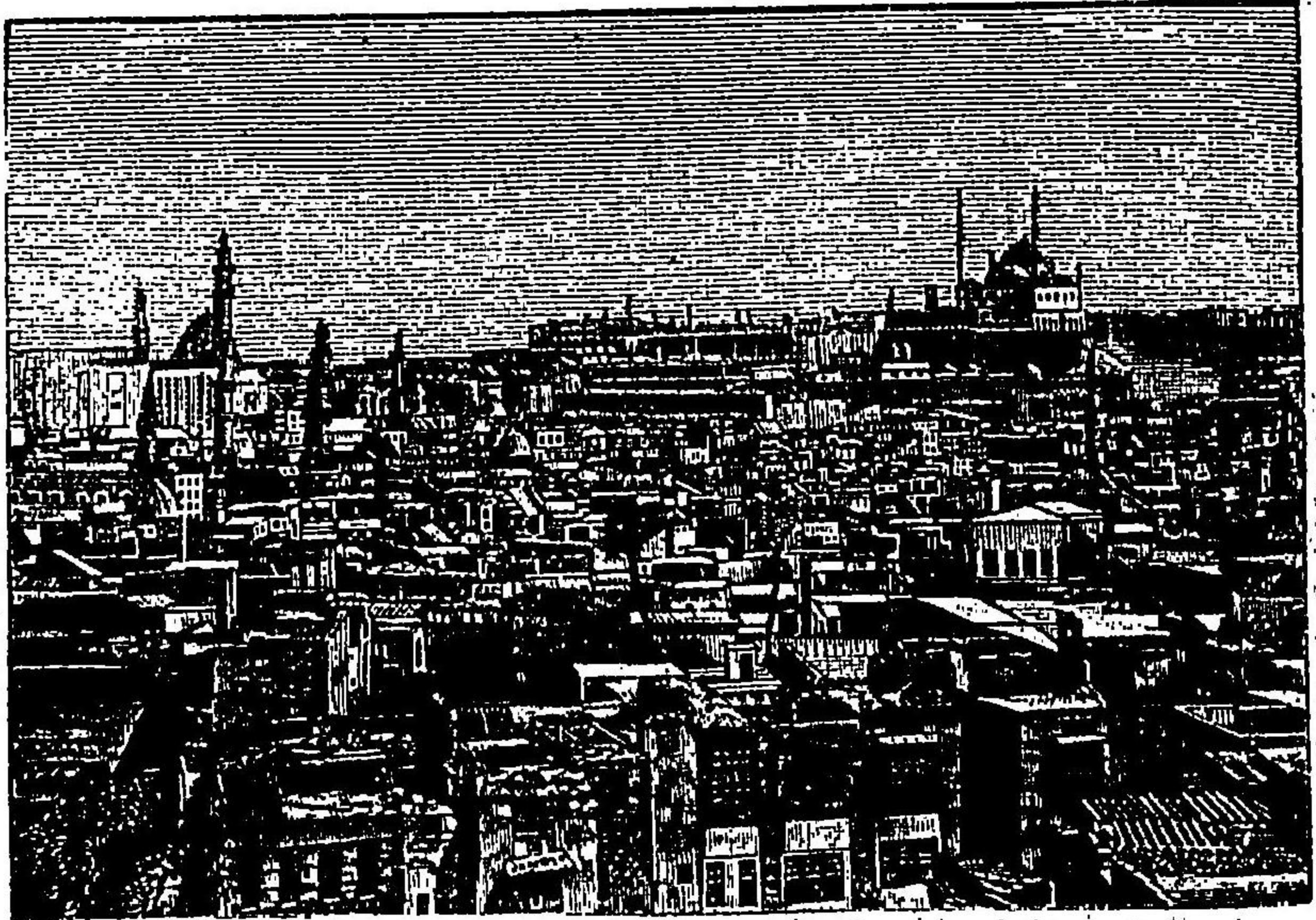
中部亞非利加

中部亞非利加は、本洲内部の總稱なり。此部には、唯**コンゴ**自由國あるのみ。其他**スーダン**地方は、蠻民の巢窟にして、其内地の事情は、詳にすべからざる所多しと云ふ。

屬島

屬島の中、**マダガスカル**は獨立國なりしが、近時佛國に征

各國の
首府及
主要港



カ　イ　ロ　府

服せらる。其他の諸島は、概ね英・佛・西・葡等の諸國に附屬す。

第九 都會

本洲の都會は、埃及の首府**カイロ**を第一とす。其人口六十萬に近し。**アレキサンドリア**も、また同國の一大貿易港なり。其他**アルゼリア**・**チュニ**・**ストリポリ**・**モロッコ**等には、皆其國同名の首府あり。是れ孰れも、地中海の南岸に在る

繁華の地なり。又英領ケープコロニーの首府を、ケープタウンと云ひ、南部亞非利加の要港たり。

第十 交通

本洲は、沿岸に良港少く、内地に鐵道郵便電信等の制備はらず、水陸共に其交通甚た不便なり。然れども、地中海沿岸の港口と、歐洲諸港との間には、船舶常に往來して、稍運漕の便利あり。

第十一 生業

歐羅巴諸國の移民及び稍智識の開けたる人民は、農工の業に従事すれども、古來の蠻民は、漁獵に由りて生活するもの多し。其製造品の主要なるは、獸皮・綿・砂糖・橄欖油等なり。

水陸交通の不便

農工業

漁獵

り。又蠻地より、砂金・護謨・駝鳥の羽毛・象牙等を出す。

第十二 沿革

本洲の北部は、亞細亞の西部と共に、最も早く開けたる地方にして、埃及の如きは、古代帝王の墳墓・宮殿等、四五千年前の遺蹟、今猶ほ存するものあり。然れども、氣候の炎熱と地形の不便とは、人民の智力を弱めて之を發達せしめず。故に現今に至りても、歐洲の殖民地と北部地方の小部分との外は、大抵野蠻の境遇を脱せざるものゝ如し。

埃及の開化

野蠻の境遇

亞非利加諸邦概表

國名	面積	人種	人口	政治	宗教
埃及	77,200 <small>方里</small>	高加索 (セミチツク派)	6,827,000 <small>人</small>	土耳其の附庸の國にして英國の監督を受く	基督新教、回々教
スービア	42,000	高加索 (セミチツク派)	400,000	蕃地に於て埃及並に英國の制御を受く	回々教
アビシニア	42,000	混合種	7,500,000	新王國	回々教、蕃教、基督教
モロッコ	368,800	高加索 (セミチツク派)	9,400,000	王國	回々教
アルゼリア	442,000	混合種	3,910,000	(佛蘭西領)	回々教
チュニス	76,000	混合種	1,500,000	(佛蘭西領)	回々教
トリポリ	67,000	混合種	1,310,000	(土耳其領)	回々教
ザンゲバル	110	黑人種	75,000	(英吉利領)	回々教
オーレンツ共和国	8,100	黑人種	218,000	立憲共和國	回々教、蕃教
トランスヴァール	199,900	黑人種	6,000,000	立憲共和國	回々教、基督教
共和國			3,000,000		

リベリア 二四〇〇 黑人種 一五〇,〇〇〇 共和國 蕃教、基督新教

コンゴ自由國 一五,〇〇〇 黑人種 三,〇〇〇,〇〇〇 (白耳義國) 回々教

附記 本大洲は二三の小部分を除く外概して歐洲諸強國の支配若くは干渉を受けざるなく又内地に至りては面積人口等も未詳なるもの多し今其歐洲諸強國の領土たる面積人口を示せば次の如し

英吉利領	366,000 <small>方里</small>	40,000,000 <small>人</small>	伊太利領	101,100 <small>方里</small>	63,000,000 <small>人</small>
獨逸領	152,600	5,100,000	土耳其領	134,000	11,000,000
葡萄牙領	382,000	4,400,000	佛蘭西領	531,000	27,100,000
西班牙領	355,000	43,000,000			

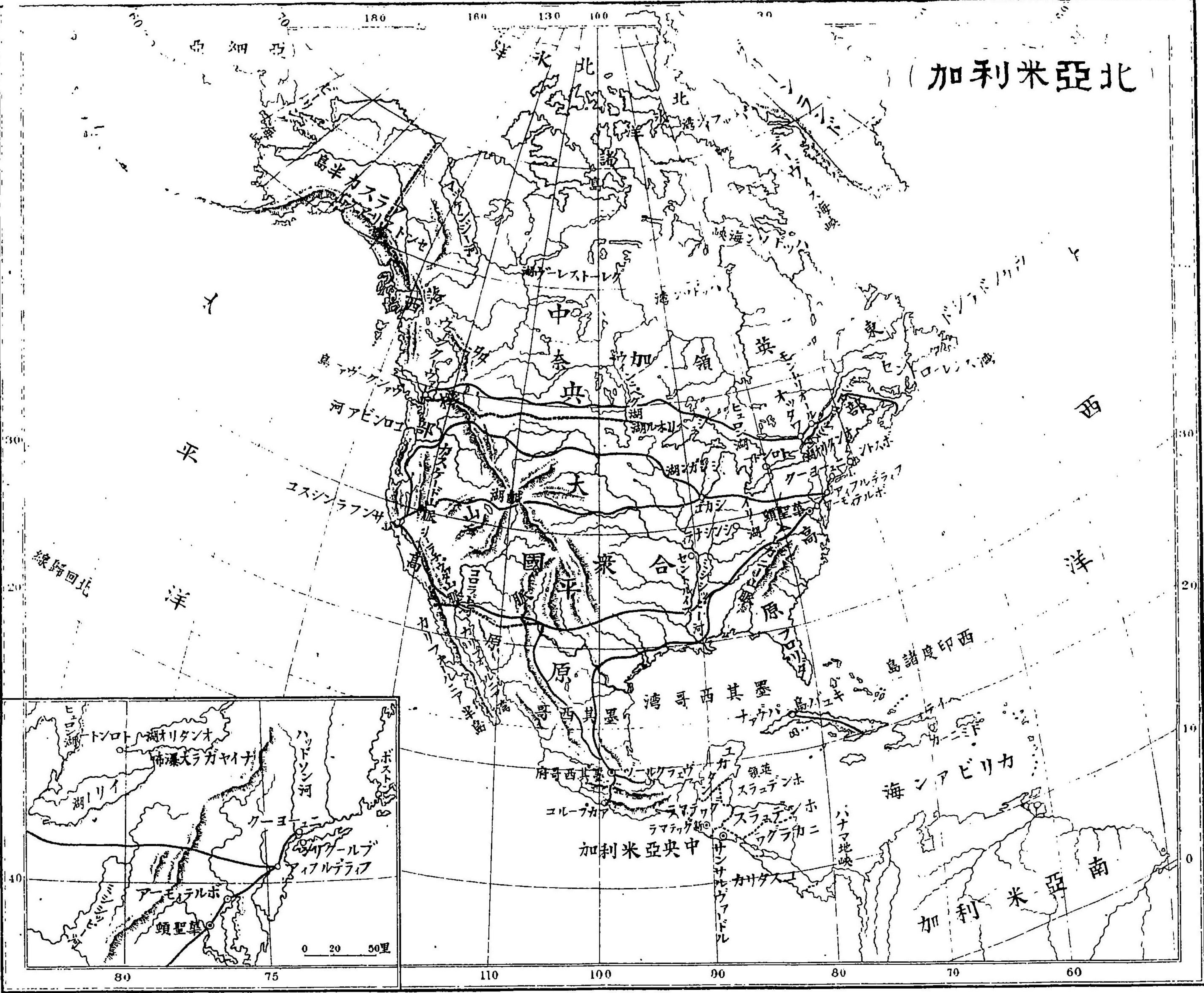
第五章 北亞米利加洲

第一 位置

境域
廣袤及
び人口

北亞米利加洲は、西半球の北部に位し、南はパナマ地峽に由りて、南亞米利加に連り、東は太西洋に臨み、北は北氷洋に瀕し、西は太平洋に面し、西北隅はビーリング海峽を以て、亞細亞と界せり。北緯八度より、同八十三度に至り、西經五十二度より、同百六十八度に至る。南北は大約一千八百餘里にして、東西の最も廣き處は一千二百餘里あり。其面積は、附屬島嶼を合算して、一百四十六萬餘方里、人口は八千餘萬を有す。

第二 海岸線



北亞米加利 (North America)

中央 (Central)

大平 (Great Plains)

中亞米加利 (Central America)

南亞米加利 (South America)

北回歸線 (Tropic of Cancer)

0 20 50里 (Scale bar)

岬灣及
海峡

本洲の海岸線は、一萬二百里内外にして、東岸は、其出入殊に多し。岬灣・海峡の著名なるは、大西洋の北部に、バツファイン灣あり。其灣口をデーヴィス海峡と云ふ。其西南に當りて、深く陸地に彎入せるは、ハツドソン灣にして、其灣口をハツドソン海峡と云ふ。中部にセントローレンス灣あり。其西南にフロリダ及びユカタンの半島ありて、墨其西哥灣を擁す。其南にある海を、カリビアン海と云ふ。又太平洋沿岸には、南部にカリフォルニア半島と大陸との間に、カリフォルニア灣あり。北部には、アラスカ半島ありて、遠く海上に突出す。

所屬島嶼の著名なるは、グリーンランドを第一とし、北氷

島嶼

洋諸島、西印度諸島、ニューファウンドランド、ヴァンク
ヴァ、一等これに次ぐ。

第三 地 勢

地勢は、東西兩部に各一帯の山脈ありて、自ら高地をなす、
其外側は、海岸に沿ひて、狹長なる平地を爲せり。此兩高地
の中間は、廣濶なる低地にして、之を北米平原と稱す。

北米平
原
山脈

山脈は、西にあるを落機山脈と云ひ、東にあるをアレガニ
ー山脈と云ふ。落機山脈は、西海岸に沿ひて、北西より南東
に連り、其長さ一千七百里に及べり。其支派に屬するカス
ケード及びシーラ子ヴァダの兩山脈は、其嶮岨本脈に勝
り、セントエリアスと稱する山峰の如きは、高さ一萬七千

河流

尺に達せり。アレガニ―山脈は、北東より南西に亘り、其長
さ五百里に及ぶ。此山脈中の峯巒は、甚だ急峻ならずして、
高さ六千尺を超ゆるものなり。

河流の最大なるは、ミシシッピ―河にして、東西の兩山脈
より發する所の諸水を合せ、北米平原を環流す。其流程千
八百里に餘り、實に世界第一の長流なり。其他、墨其西哥灣
に注ぐリオグランド、カリフォルニア灣に入るコロラ
ード、太平洋に朝するコロンビア、大西洋に注ぐセントロ
ーレンス、北氷洋に入るマツケンジ―等、各、流程四百里を
過ぐる大河なり。

湖沼

湖沼は、ハツドソン灣附近の地方に最も多し。シユペリオ

ルミシガン・ヒュロン・イリー・オンタリオの五湖を最大な

るものと

す。此五湖

は、其水脈

相通じて、

イリー・オ

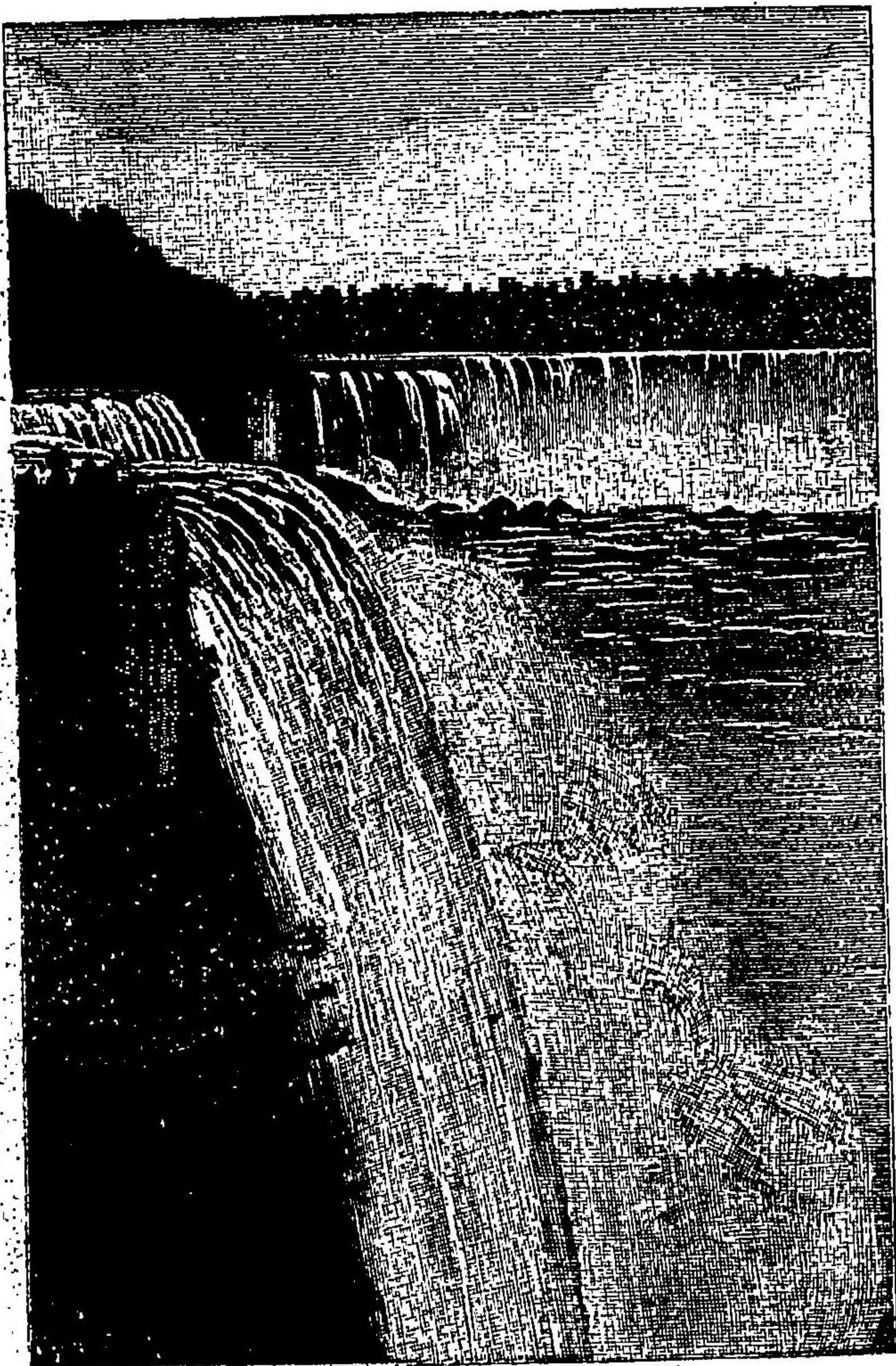
ンタリオ

兩湖の間

には、有名

なるナイ

ヤガラの大瀑布あり。シユペリオル湖は、面積五千四百方



布 瀑 ラ ガ ヤ イ ナ

里あり。世界の中にて淡水湖の第一と稱せらる。其他グレ
ートスレーヴウ井ンニーペグ等も、有名の大湖なり。又落
機山脈中には、鹹湖ありて、所々に散在す。

第四 氣候

溫度
本洲の氣候は、歐羅巴洲の同緯度に比すれば、概して寒冷
なり。且つ洲の疆域、寒溫熱の三帯に跨るを以て、各地甚し
き差異あり。即ち北部は、沍寒にして人類に適せず。南部は、
苦熱にして健康を害す。只、中部のみは、溫和にして生活に
宜し。然れども、中央の太平洋原は、南北より、寒熱の風迭に來
りて、氣候に激變を生ずることあり。降雨の量は、沿海地方
に多くして内地に少し。

風雨

第五 產物

植物

本洲は、天產物甚た多けれども、農產物に至りては、頗る少く。昔時は、玉蜀黍の一種あるのみなりしが、歐羅巴洲たよび南亞米利加洲より、小麥・綿・甘蔗・馬鈴薯・煙草の類を移植して、今は年々に其產額を増加せり。山林には、松・柏其他の良材ありて、植物の種類甚た多し。

動物

動物は、其種類極めて少く、牛・馬・羊・豚の如きは、皆歐洲より移牧したるものなり。

礦物

礦物は、頗る多し。就中落機山の金・銀、アレガニー山の石炭、石油、墨其西哥の銀等は、其產額實に多量なり。

第六 人種

白色人種

本洲の住民には、白色・銅色・黒色の三人種あり。白色人種は、昔、閣龍が本洲を發見したりと以來、歐洲より移住せるものにして、其數最も多し。加奈多及び合衆國の住民には、英國より移れるもの多く、西印度諸島の住民は、西班牙族多し。銅色人種は、本洲固有の人種なれども、無智にして生活の道に疎く、其數次第に減少して、今は四十萬に満たず。黒色人種は、もと亞非利加より輸入したる奴隸の子孫にして、合衆國の南部地方に散居し、其數多からず。墨其西哥及び中央亞米利加の住民は、西班牙人と土人との混合種にして、之をメステイゾーと稱す。又グリーンランド地方には、モンゴリアの一種に屬するエスキモー人住居せり。

銅色人種
黒色人種

メステイゾー
エスキモー

第七 宗教

耶蘇教
 本洲に行はるゝ宗教の主なるものは、耶蘇教にして、合衆國れよび加奈多の人民は、多く其新教を奉じ、墨其西哥・中央亞米利加れよび西印度諸島の人民は、概ね其舊教を信せり。土人は、大抵蠻教を奉じ、又合衆國の或地方には、モルモン宗の信徒あり。

第八 邦制

區劃
 本洲の邦制區劃は、グリーンランド・加奈多・合衆國・墨其西哥・中央亞米利加れよび西印度諸島とす。
 政體及
 グリーンランドは、丁抹の所領にして、加奈多れよび其附近の島嶼は、英國の殖民地たり。合衆國と墨其西哥とは、共

合衆國の都會

和政體を用ふる獨立の大國なり。中央亞米利加は、グワテマラ・ホンデユラス・サンサルヴァー・ドル・ニカラグラ及びコスタリカの五小國に分れて、各國に共和政體を立てたり。グワテマラの東岸に、英國の殖民地あり、之を英領ホンデユラスと云ふ。西印度諸島中に、ドミニカ及びハイティと稱する二共和國あり。其他は英・佛・西・蘭等の諸國に分屬せり。

第九 都會

本洲の都會は、合衆國にニューヨーク・ウァシントン・フィラデルフィア・シカゴ・ボストン・ボルティモール等の如き繁華なる所あり。特にニューヨークは、全洲第一の繁盛な

加奈多
の都會

西海岸
の要港

墨其西
哥及西
中央亞
米利加
の都會

る大都會にして、**ワシントン**には、國會議事堂及び大統領の官舎等あり。

加奈多の首府を、**オッタワ**と稱す。**モントリオール**及び**トロント**も、また此地方に於ける大都會なり。

此國の**ヴァンクーヴァー**及び合衆國の**サンフランシスコ**は、共に西海岸に在りて、東洋諸國に通ずる要港なり。

墨其西の首府を、**墨其西哥府**といふ、人口三十萬餘を有す。中央亞米利加諸國の首府は、各數萬の人口を有すれども、**グワテマラ**國の新**グワテマラ**府を、其第一とす。**サンサルヴァートル**の**サンサルヴァートル**府も、亦有名なり。西印度諸島中、**キューバ**島の**ハヴァナ**は、同島の首府にして、其

海陸交
通の便

大鐵道
及びシ
ンピミ
の汽船
河

砂糖貿易の盛なる、世界第一と稱せらる。

第十 交通

本洲は、沿海地に港灣多きのみならず、河流・運河は、縦横に



落機山中の鐵道

する鐵道の如きは、長さ一千里餘に達して、**太西**・**太平**兩大

通じ、郵便・電信・鐵道の制も、また悉く備らざるなれば、交通の便甚た大なり。殊に桑港より、紐育に通

洋を連ねたり、又ミシシッピ河は、河口より八百餘里の間、汽船の通行自由なれば、此河によりて、年々運輸せらるる貨物の價格は、實に二十億圓の巨額に達すと云へり。

第十一 生業

本洲は、土地概ね平坦にして、且つ肥沃なれば、何れの國も、農業盛に行はれて、其農産物頗る多し。工業、商業は、南部の地方に盛にして、漁業は、北部の地方に盛なり。製造品の主要なるものは、鐵器、船舶、硝子、布帛、砂糖類にして、年々多額の輸出をなせり。

第十二 沿革

南北の亞米利加洲は、今より四百餘年前にあたり、伊太利

農業工業
及商業
漁業

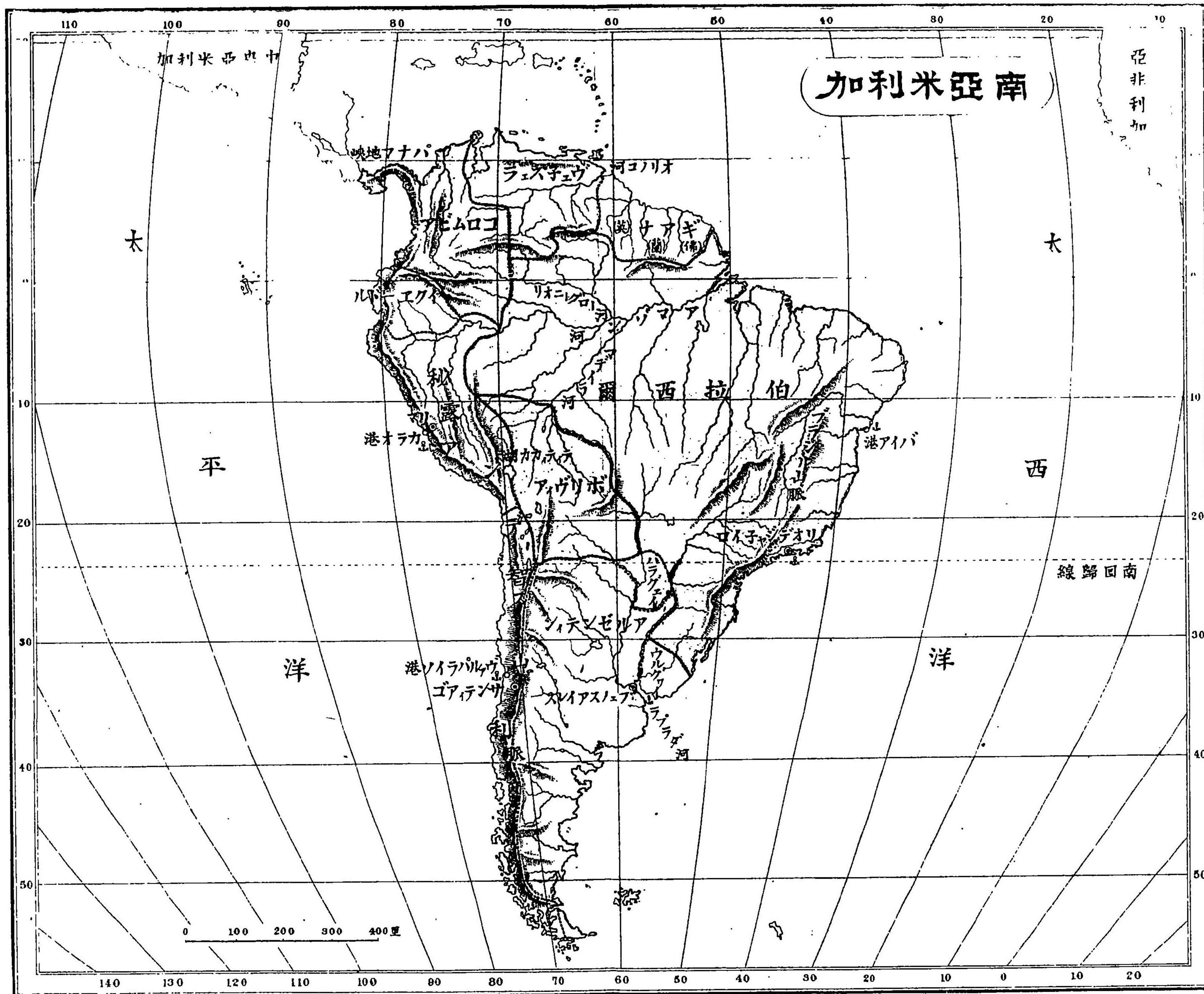
コロ
ンブ
ス
ア
メ
リ
カ

北米諸
國の
變遷

の人コロンプスが、大西洋を航行して、始て発見したる所なり。其亞米利加といへる稱呼は、アメリカスといへる人が、コロンプスの航海記事を、世に公にしたるに由りて起れるなりと云へり。此大洲発見せられて後、歐洲諸國の人民の移住するもの年々に増加して、現今の合衆國は英國に屬し、墨其西哥、中央亞米利加および西印度諸島は、概ね西班牙の領地たりしが、今より百數十年前、合衆國は獨立して新に國を建て、墨其西哥及び中央亞米利加の諸國は、數十年前西班牙の支配を脱して、共和政體を設け、西印度諸島中のキューバも近年獨立したり。

北亞米利加諸邦概表

國名	面積	人種	人口	政治	宗教
グリーンランド	一四〇九〇〇 ^{方里}	エスキモー種屬	一〇,〇〇〇 ^人	(丁抹領)	
加 奈 多	五七,八〇〇	高加索 (アリアン派)	五,二〇〇,〇〇〇	(英領)	基督新教、羅馬加特力教
合 衆 國	五八,二〇〇	高加索 (アリアン派) 蒙古種 印古種 黑人種	六二,六三〇,〇〇〇	合衆共和政體	基督新教、羅馬加特力教、モルモン宗
墨 其 西 哥	三八,九〇〇	高加索 (西班牙族) 印古種 混合種	三,六三〇,〇〇〇	共和國	羅馬加特力教、基督新教
中央亞米利加	三〇,二〇〇	高加索 (西班牙族) 印古種 混合種	三,三〇〇,〇〇〇	共和國 (但し數箇の獨立共和國に分る)	羅馬加特力教、基督新教
西印度諸島	一五,五〇〇	高加索 (西班牙族) 黑人種	四,〇〇〇,〇〇〇	共和國 (英米等の領地あり)	基督新教、蕃教



南亞米加利

加利米亞中

亞非利加

太

大

平

西

洋

洋

西拉伯

南回歸線

0 100 200 300 400 哩

110 100 90 80 70 60 50 40 30 20 10 0 10 20 140 130 120 110 100 90 80 70 60 50 40 30 20 10 0 10 20

境域

廣袤及
人口

第六章 南亞米利加洲

第一 位置

南亞米利加洲は、西半球の東南部に位し、北はパナマの地峽に由りて、北亞米利加に連り、西は太平洋に臨み、東は大西洋を控へ、南は南氷洋に向へり。北緯十二度より、南緯五十六度に至り、西經三十五度より、同八十三度に至る。其面積は凡そ百三十萬餘方里あれども、人口は僅に三千七百萬に過ぎず。

第二 海岸線

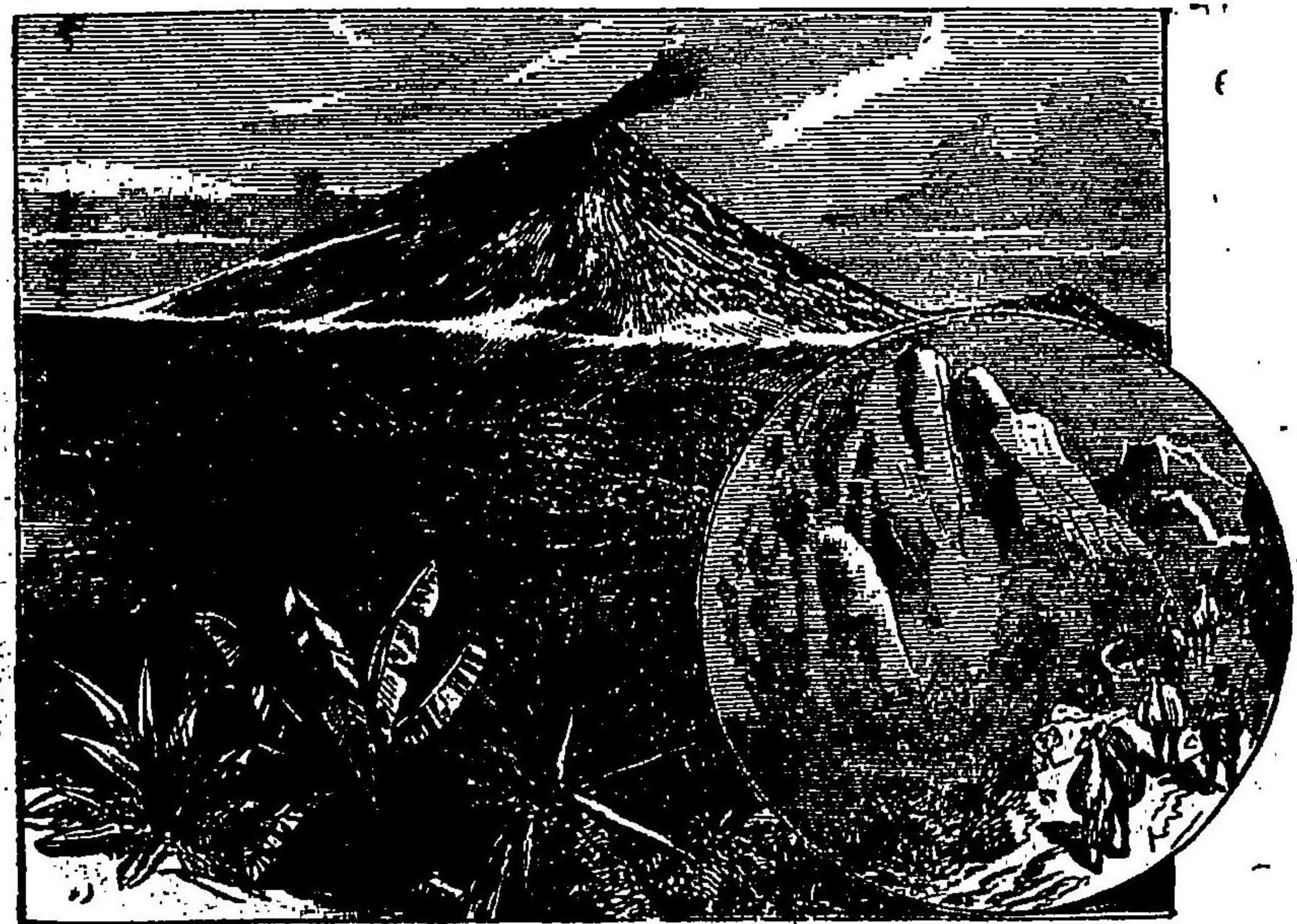
本洲は、水陸の交界單一なるを以て、海岸線の延長、僅に六千五百里に過ぎず。また屬島の數も甚た少くして、著名の

島も甚た多からず。

第三 地 勢

本洲の東西北三方は、山脈連亘して、其土地自ら隆起したれども、其中間は低平にして、其廣さ數百里に渉れる大平原あり、これを中央大平原と云ふ。此大平原の廣さは、殆ど全洲面積の三分一を占むと云へり。

山脈の最大なるは、アンデス



峰高の中脈山同び及山ステンア

中央大平原

山脈

にして、西海岸に沿ひて、本洲を南北に一貫せり。其長さは一千七百里に餘り、高さは平均一萬尺以上に達し、其最高峰は、殆ど二萬五千尺に至れり。地球上ヒマラヤ山に次ぐる高山と謂ふべし。此山脈中には、火山の數極めて多くして、往々恐るべき地震を起すことあり。ギニア山脈は、崎嶇として洲の北部に連り、ブラジル山脈は、綿々として洲の東部に亘る。然れども、此兩山系は、アンデスの如くに高峻をらず。

河流

河流の大なるは、概ね源をアンデス山中に發して、太西洋に注けり。其中にて、最大なるをアマゾン河とす。此河は、中央平原を貫流すること一千五百餘里、實に北米のミシシ

湖沼

ツピ―河に次ける長流なり。然れども、其水の多量なると、河幅の廣濶なるとは、**ミシシッピ**河に下らず。其他南部地方に於ける**ラブラダ**、北部地方に於ける**オリノコ**等は、洲内著名の大河なり。
湖沼は、大なるもの少く、唯、**マラカイボ―チ**、**カ**、等を稍、著名なりとす。

第四 氣候

本洲の大部分は、熱帯に位せるを以て、氣候炎熱の地多し。殊に中部以北は、酷熱多雨にして、瘴癘の氣人を害す。然れども、西部一帯の高地は、空氣頗る清爽にして、四時春秋の如し。又南部地方は、一般に溫暖なれども、極南に至れば、寒

溫度及
び雨量

植物

氣頗る強し。

第五 産物

産物は、植物にては、**珈琲**・**綿**・**煙草**・**甘蔗**・**葡萄**・**幾那**・**船材**の類なり。又乳樹とて、最も珍奇なる植物あり。

動物

動物は、**鸚鵡**・**食蟻獸**・**巨蟒**・**鰐魚**等にして、野生の牛馬も亦夥し。殊に蝙蝠・**蝦蟆**・**蛭**・**螢**等は、頗る巨大のものあり。

礦物

礦物は、**アンデス**山脈中より、多くの貴金屬を出す。中にも、秘露は、有名なる金銀の産地にして、既往三百年間に採掘したる金銀の價格は、無慮五十億圓に達したりと云へり。

第六 人種

住民は、**白色**・**銅色**・**黒色**の三人種にして、各地に雜居せり。白

白色及
銅色
黒色
人

色人種は、概ね智力優等にして、他の兩人種を凌駕し、其政權を掌握せり。

第七 宗教

本洲に最も多く行はるゝ宗教は、耶蘇舊教にして、白色人種は大抵之を崇奉せり。他の兩人種にも、稀にはこれに歸依するものあれども、其多數は固有の蠻教を信せり。

第八 邦制

本洲の邦制區劃は、コロンビア、ヴェネズエラ、イクエードル、秘露、ボリヴィア、智利、アルゼンティン、パラグアイ、ウルグワイ、伯拉西爾及びギアナの十一國とす。

此諸國は、概ね北米合衆國の制度に倣ひて、共和政體を用

耶蘇舊教

蠻教

區劃

政體

各國の
首府



府ロイ子ャジテオリ

ふ。たゞギアナの一國は、英佛蘭の三國に屬して、三部に分れたり。

第九 都會

都會は、アルゼンティンの首府ブエノスアイレスを第一とす。其人口七十萬に餘れり。之に次ぐを、伯拉西爾の首府リオデジャネイロとす。サンティアゴは、智利の首府にして、人口二十餘萬を有し、ヴァ

ルバライソは、太平洋の沿岸に於て、唯一の良港と稱せらる。其他各國の首府、何れも數萬の住民を有せり。

第十 交通

交通の不便の本洲は、海岸に良港乏しく、内地に山岳高原相連り、加之、郵便・電信の制、船舶・車馬の備、未だ完全ならざれば、交通極て不便なり。然れども、アマゾン河の如きは、河口より八百餘里の上流に至るまで、大船の往來自由にして、運輸の利あり。又各地方には、多少の鐵道ありて、交通の便を助くるものなきにあらず。

第十一 生業

農業 本洲住民の生業は、農業最も盛にして、牧畜もまた大に行

農業及
漁業

はる。就中、伯拉西爾國の珈琲は、其産額甚た多くして、世界各國に於ける此需用の過半を充すと云ふ。又幾那は、本洲特産の藥劑にして、輸出高甚た多し。其他アンデス山中の鑛業、智利の漁業等も、また盛大なりと稱せらる。

第十二 沿革

新建築
コロンブスが、新世界發見の後、西班牙及び葡萄牙兩國人の、本洲に移住せるもの、其地の繁昌に赴くに隨ひ、故國と分離して、別に一國を建てたるもの多し。故に其言語・風俗等、今尙は舊時の如くなり。雖も、其制度・文物は、何れも皆北米合衆國の風に倣へり。然れども、土地廣く、人口稀にして、未だ國運の隆盛なる者あるを見ず。

南亞米利加諸邦概表

國名	面積	人種	人口	政治	宗教
コロンビア	八五,七〇〇	高加索、印甸種 混合種	三,九〇〇,〇〇〇人	共和國 <small>(元西班牙領、但し三小國に分つ)</small>	羅馬加特力教
ヴェネチエラ	九九,八〇〇	印甸種(黑人種)、 高加索(西班牙族)	二,三三〇,〇〇〇	立憲共和國(同前)	羅馬加特力教
イクエードル	二〇,二〇〇	高加索(西班牙族) 印甸種、混合種	二,二七〇,〇〇〇	共和國(元西班牙領)	羅馬加特力教
秘露	七,九〇〇	印甸種 高加索(西班牙族)	二,六二〇,〇〇〇	共和國(同前)	羅馬加特力教
ボリヱア	九五,三〇〇	高加索(西班牙族) 印甸種、混合種	二,〇三〇,〇〇〇	共和國(同前)	羅馬加特力教
智利	四九,四〇〇	印甸種 高加索(西班牙族)	二,五七〇,〇〇〇	共和國(同前)	羅馬加特力教
アルゼンティン	二九,〇〇〇	高加索(西班牙族) 印甸種、混合種	四,〇五〇,〇〇〇	共和國(同前)	羅馬加特力教
パラグエイ	二六,五〇〇	印甸種 高加索(西班牙族)	四,九六〇,〇〇〇	共和國(同前)	羅馬加特力教
ウルグワイ	三,一〇〇	印甸種 高加索(西班牙族)	七〇〇,〇〇〇	共和國(同前)	羅馬加特力教

伯拉西爾	五九,〇〇〇	印甸種 高加索	二四,三〇〇,〇〇〇	立憲共和國 <small>(元葡領)</small>	羅馬加特力教
ギアナ	四八,八〇〇	高加索 印甸種、混合種	三七一,〇〇〇	英領 佛領	羅馬加特力教

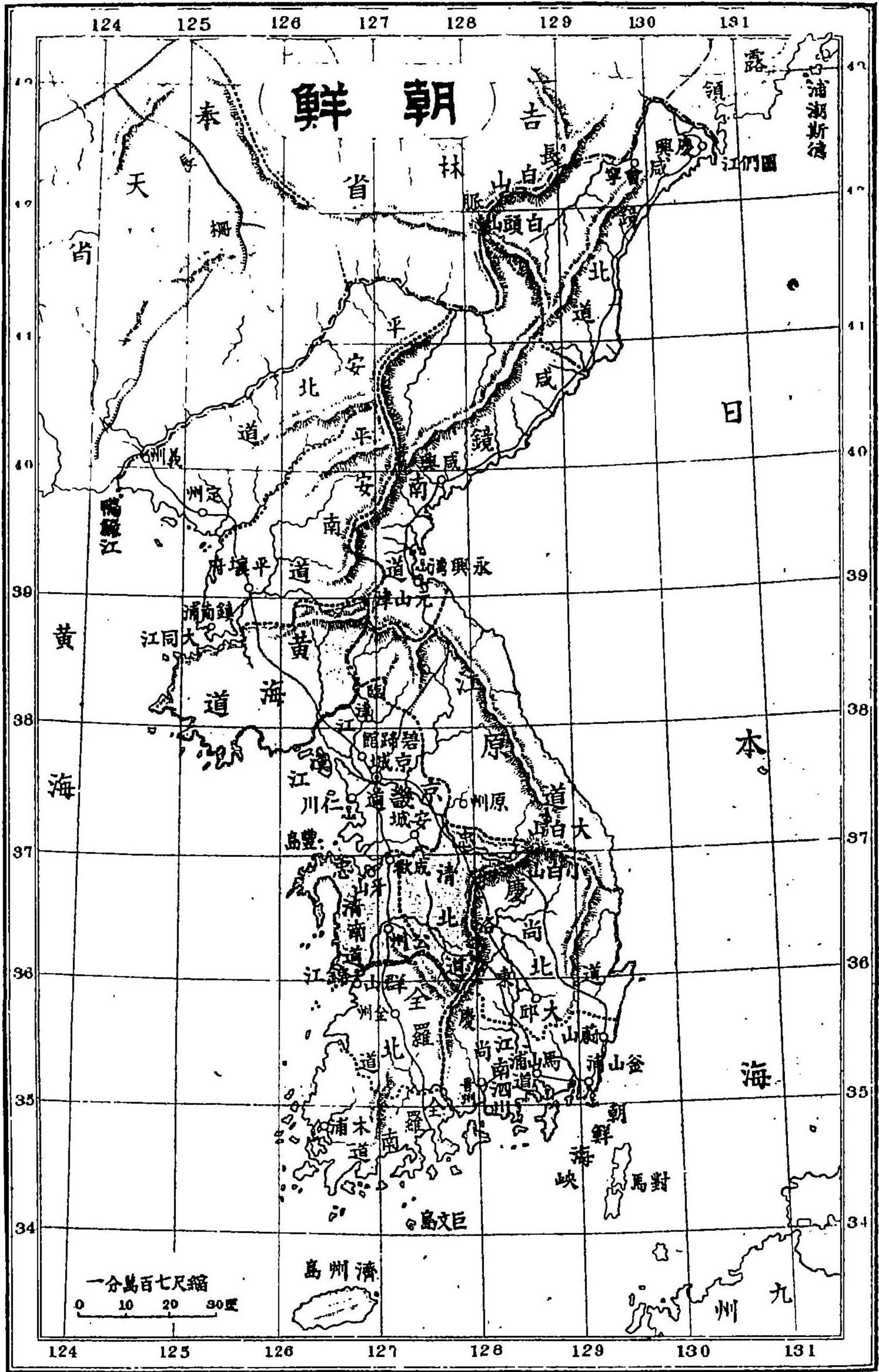
第二篇 締盟各國誌

第一章 亞細亞洲の諸國

第一節 朝鮮

位置境域 (一)位置境域 朝鮮は、亞細亞洲の東部、日・清・露三國の中間に介立せる半島國にして、其中央は、北緯三十八度、東經百二十七度に當れり。其境界たる、東は日本海を隔て、我國に對し、西は黃海を挾みて、支那本部を望み、東南端は朝鮮海峽を隔て、我對馬に向ひ、北は長白山と鴨綠圖們的兩江とに依りて、滿洲と界せり。

(二)廣袤・人口 全國の長さは百九十餘里、幅廣き所以て凡



地勢

そ五十餘里面積は一萬三千七百餘方里にして、大畧我國の強半に當り、人口は一千〇五十三萬餘ありて、一方里につき凡そ七百六十八人の割合なり。

(三)地勢 國の形は、東西に狭くして南北に長し。其東海岸は、永興灣の彎入せる外、其屈曲甚た多からず。南海岸は出入稍繁くして、島嶼もまた多し。航海上の要所たる巨文島は此中にあり。西海岸は、最も港灣と岬角とに富み、島嶼の點在するものもまた少からず。著名の仁川港は、此方面にあり。

山岳

山岳丘陵は、到る處に起伏し、其狀宛も怒濤の強風に激するが如し。長白山は北境に連り、其最高峰を白頭山とす。此

山高さ八千數百尺ありて、東北西三方の分水點をなせり。長白山脈より、南方に分派せる山脈を、小白山脈と云ふ、是れ半島の主山脈なり、其脈は、東海岸に接して南方に走り、また西南に向ひて、黃海の濱に達せり、此支脈兩側に蔓延して、全國殆ど平原と稱すべきものなり。然れども、其主山脈の西部は、東部に比すれば稍平坦にして、地味もまた肥沃なりとす。

鴨綠・圖們の兩江は、此國の二大流にして、共に源を白頭山に發し、一は西南に流れて、滿洲の境をなす、河口三派に分れて、黃海に入る。一は東に流れて、露領との境をなす、數多の支流を分ちて、遂に日本海に注ぐ。錦江・漢江・大同江の三

河流

流は、皆長白山脈の西より發して、西海に入る。就中、漢江は、半島の中央を横流し、京城に通ずる要路に當れり。大同江は、明治二十七八年の戦役に於て著名なり。洛東江は、長白山脈の東より發し、南流して釜山浦の西に至り、朝鮮海峽に注ぐ。

區劃

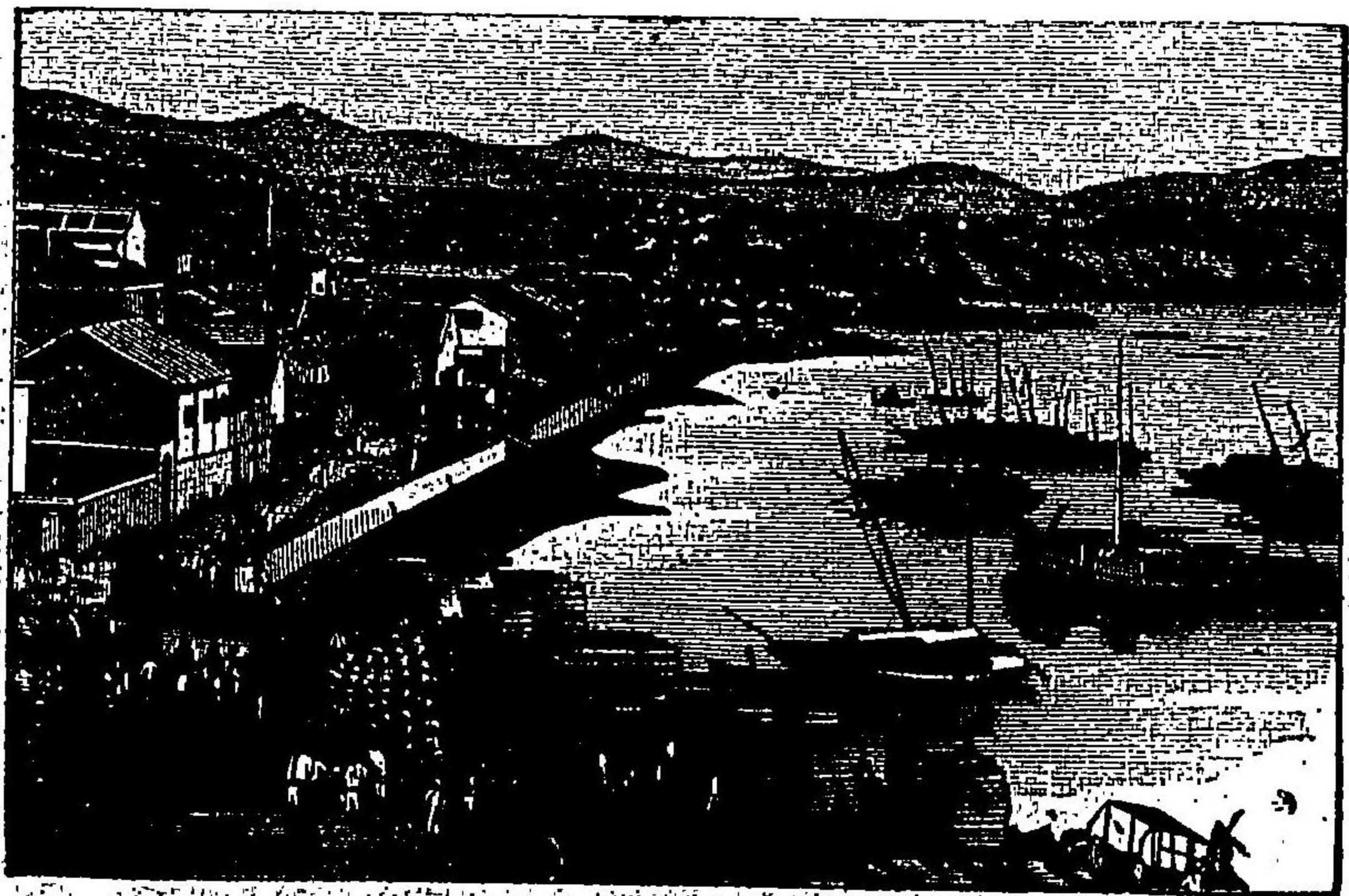
(四)區劃・都邑 從來は、國內を分ちて、咸鏡・江原・慶尙・平安・黃海・京畿・忠清・全羅の八道と爲せしが、近時は、咸鏡・慶尙・平安・忠清・全羅を、各南北二道に分ち、全國を十三道と爲せり。

咸鏡・江原・慶尙は、日本海に面し、其他は黃海に面す。首府は、京城又は漢陽と云ひ、京畿道にありて、漢江の沿岸に位せり。其四方は高壁を繞らし、八個の門を設け、警備甚

都邑

た嚴重なり。王宮は、府の西北部にあり。其街衢は人口稠密なれども、極て陋穢なり。日本公使館は、泥峴岡にあり。我國人の在留するもの、殆ど二千人に近しと云へり。

平壤府は、平安道にあり。大同江の右岸に據り、大城山之密臺、牡丹臺等の高地を控へたり。大同江口にある鎮南浦と共に近來の開港場なり。



仁川港

仁川港は、京畿道にあり。其地、京城に近くして、彼此の關係たる、猶ほ我東京の横濱に於けるが如し。我馬關を距ること、海上五百裡にして、往時は、一小漁村に過ぎざりしが、我明治十六年、開港場となりしより、貿易漸く盛大に赴き、今は繁華の都會となれり。現今本邦人の在留するもの、四千人を超ゆといふ。

釜山浦は、慶尙道にあり。最も我に接近せる要港にして、馬關を距る、僅に百二十二裡なり。往時より、我對馬の宗氏と通商最も盛にして、現今、本邦人の在留せるもの最も多く、其數六千餘人に及べり。

元山津は、咸鏡道にあり。明治十三年、我國の爲に開きたる

互市場にして、其貿易未だ盛大に至らずと雖も、將來多望の埠頭なり。

義州府は、平安道にあり。鴨綠江の南岸に臨み、北清に通ずる要地たり。

木浦は、全羅道にあり。近來の開港場にして、本道産物の輸出場なり。

安城郡の素沙河(京畿道)成歡驛(忠清道)牙山縣(同上)等は、大同江・仁川・平壤等と共に、明治二十七八年の役の爲に、我邦人の記憶に存する所にして、會寧(咸鏡道)蔚山(慶尙道)碧蹄館(京畿道)等は、豊公征韓の古戰場として、我戦史に著名なる所なり。

氣候

(五)氣候産物 氣候は、寒暑共に烈しく、殊に冬季に至れば、

産物

北部の諸河は、皆堅氷を結びて、舟楫を通せずと云ふ。北部の山林は、金鑛に富み、西部の沿岸は、農産に適せり。其産物の重要なるを擧ぐれば、砂金・米・麥・煙草・麻・綿・豆・獸皮等にして、有名なる朝鮮人參は、政府の專賣品なり。金・銀・銅・鐵石炭れよび諸種の工藝品も、多少の産出あれども、其業未だ盛大に至らず。

沿革

(六)沿革 此國は、往古、三韓と稱せし地にして、今は朝鮮とも、韓國とも稱す。現朝は、今より五百餘年前の創建なり。我國との交通最も早く開け、神功皇后の時より年貢を我に納れ、文字技藝を傳へて、我文化を助けたりととも、また

少からず。其後、我を離れて、支那に朝貢し、殆ど其屬國の如くなりたりしも、我國との交通は、常に絶えざりけり。近年までは、朝廷、守舊を旨とし、我國と支那との外は、一切外交を開かさざりけるが、明治九年、我國の勸告によりて、始て我政府と修好條約を結び、尋で他の國々と交通するに至れり。其後、明治二十七年にいたり、我國の勸告に従ひて、大に國政を改革し、同三十年、國號を韓と改め、帝國と稱するに至れり。

住民

(六)住民 蒙古人種にして、其容貌我國人に類せり。衣服は、支那明代の風にならひ、一般に、麻布の長袖を著す。但し、貴人は彩絹を著し、貴女は、外出する時、帛を以て其面

を覆へり。

性質は卑陋にして、勤勉貯蓄の念なく、國家思想に乏し。上下の懸隔また頗る嚴重なり。

國教は、儒・佛の二教にして、上流の人は、多く儒教を守り、下流の人は、概ね佛教を奉ず。言語・文章は、固有の國語・國文なきにあらざると雖も、教育を受けたる者は、概ね支那語を用ひ、公事には専ら漢文を用ふ。

(七)政體 政體は、古來、君主專制にして、制度文物は、多くは支那の古風を模範とし、人民は、貴族・平民・奴隸の三階級に分れ、貴族のみ唯、政權を握りて、下民を壓制する風あり。然れども、近年にいたり、大に我國の制度にならひ、新に内閣

を組織し、領議政を以て其主班とし、内部外部度支部法部軍部學部農商工部等の諸省を置き、大臣を以て各部の長官となしたり。其他、宮内大臣ありて宮中の庶務を司り、警務使ありて警察の事に任じ、中樞院ありて君主の顧問府となれり。地方行政は、各道に監使を置き、道を分ちて府郡とし、府に府使を置き、郡に郡守を置き、以て其地方の行政を處理せしむ。

兵制

兵制も、また其規模を我國に資り、且つ露米よりも、士官を聘じて、將校以下の訓練を勉めたり。然れども、改革以來日尙は淺く、時々内閣に變亂を生じて、國政未だ整頓するに至らず。

第二 支那

位置境
域

(一)位置境域 支那は、亞細亞洲の東南部を占めたる大國なり。其境界たる、東は黃海・支那海に臨み、又東海を隔て、我西南諸島と相對し、東北より北に亘りては、朝鮮・露領滿洲・西比利亞に界し、西より南に亘りては、中亞細亞・英領印度・佛領東京に境せり。

廣袤人
口

(二)廣袤・人口 東西凡そ一千二百里、南北凡そ九百六十餘里、其面積七十萬五千餘方里にして、殆ど亞細亞洲の四分の一を占め、其人口は四億二百七十餘萬ありて、略全世界人口の四分の一に當れり。此人口を以て、此國の全面積に割當れば、一方里につき、凡そ五百七十一人の比なれど

も、支那本部のみにつきて云へば、一方里をとり、凡そ千七百人の比なりとす。

地勢

(三)地勢 全面積の大なるに比すれば、海岸線の延長甚た少く、唯、僅に四百二十里を有せるのみ。其東南部は、平原・沃野多く、北部れよび西北部は、高原・沙漠多し。故に山脈の著名なるものは、多く西北部にありて、河流の廣潤なるものは、概ね東南部にあり。

山脈

亞爾泰山脈は、此國の北境を限り、其脈は、延きて東北に走り、露領ヤプロノイ山系に連れり。其脈中に以上の高峰あれども、其平均の高さは凡そ五千尺餘なり。

比馬拉亞山脈は、英領印度の境に連亘し、高さ二萬四千尺

を過ぐる高峰數十個を有し、地球上最高の山脈と稱せらる。崑崙山脈は、パミール高原より分派したるものにして、カラコルムを経て、西藏の北を過ぎ、支那本部と蒙古との間を東に走り、其支脈遂に興安嶺に接す。

天山々脈は、亞爾泰山脈と崑崙山脈との間にありて、西は中亞細亞の窪地に至り、東は新疆省を南北に分割せり。北嶺山脈は、崑崙山系の分派にして、黄河と楊子江との分水點をなし、漸く東に趨きて、遂に外海に没す。其餘脈は、我國に入りて、支那山系となれり。南嶺山脈は、楊子江の南にありて、西は比馬拉亞山系に接し、東は東海の濱に至る。

河 流 湖 沼

黄河は、源を西部の高地に發し、東に流れて北に向ひ、且は長城外に出で、復た東に折れて、渭・洛の二水を合せ、更に東北に向ひて、渤海灣に入る。此河毎年氾濫して、兩岸の地を害すること少からず。其黄河と名けたるは、黄泥を流出して、河水黄濁せるに由ると云へり。

楊子江は、西藏高原より發し、東南に流れて、金沙江となり、東に折れて、岷江・嘉陵江を合せ、大江と稱し、更に漢江を併せて、東海に注げり。此河は、其長さ凡そ一千二百餘里にして、殆ど八百餘里の上流までは、汽船を通すべし。其兩岸に、數多の開港場あり。實に、清國の公益に、至大の關係を有せり。此河の沿岸には、大湖多くありて、河水と相通ず。洞庭湖・

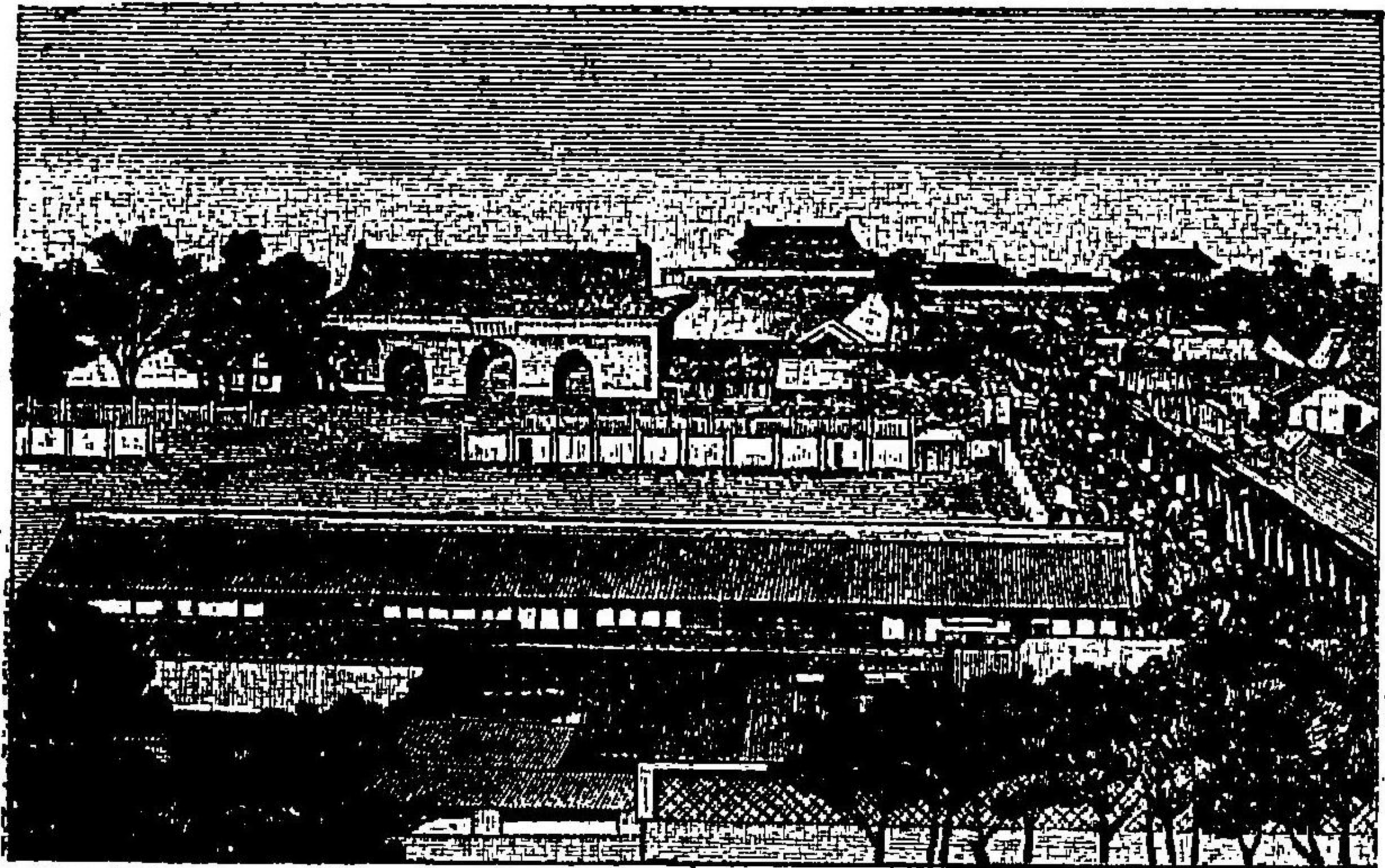
區 劃

鄱陽湖・太湖の如き是なり。

珠江は、一に黄東河と云ふ。西江・北江・東江の合流なり。南嶺山脈の南に流れて、廣東灣に入る。

(四)區劃都邑 清國を分ちて、支那本部・滿洲・蒙古・新疆省・西藏の五部となす。

支那本部は、東南部の沃野にして、東は海に面し、北は滿洲れよび蒙古に境し、西は西藏に接し、南は英佛領土に隣れり。直隸・山東・江蘇・浙江・福建・廣東・山西・河南・安徽・江西・甘肅・陝西・湖北・湖南・四川・貴州・廣西・雲南の十八省あり。前六省は、みな海に濱し、後十二省は、海岸を有せず。就中、甘肅省は、西北隅にして、最も僻遠の地なり。



門 清 大 京 北
 首府北京は、直隸省にあり。順天
 府又燕京と稱す。京城は、堅牢な
 る高壁を繞らし、十二箇の城門
 を設け、其規模甚だ壯大なり。諸
 官衙れよび王公の邸宅は、概ね
 城内にありて、市街は多く城外
 にあり。人口百六十萬を有し、東
 洋屈指の都會なり。
 天津は、白河の岸にありて、北京
 を距ること三十餘里、四通八達
 の街衢なり。其東に太沽の軍港

ありて、砲臺を設けたり。

曲阜は、山東省にあり。齊魯の故地にして、孔子の廟あり。芝罘港、威海衛も、また山東省に屬す。

河南府は、河南省にあり。洛水の北にあたるを以て、往昔これを洛陽と稱し、帝王の此に都したるもの少からず。

西安府は、陝西省にありて、古へ長安と稱したりし地なり。

其西北は、所謂咸陽の故地にして、阿房宮の古趾、今尙は存すと云へり。

江寧府は、江蘇省にあり。即ち南京と稱する地にして、舊都なり。今は昔時の壯觀なしと雖も、其人口は尙ほ五十萬を下らず、文學技藝の府と稱せらる。上海もまた江蘇省にあ

り。我長崎を距ること海上四百七十二哩にして、此國の開港場中、最も繁盛を極む。蘇州・鎮江も、亦著名の都會なり。赤壁は、湖北省にありて、漢江の上流にあたり、吳・魏の古戰場にして、風景また絶佳なり。漢口も、また湖北省にありて、漢江の岸にあたり、江畔第一の開港場とす。沙市・宜昌亦之に次ぎて、繁盛なり。

重慶府は、四川省にあり。楊子江を溯ること一千二百哩、百貨輻湊の名區たり。

成都府は、四川省にありて、人口八十萬あり。三國時代蜀の古都にして、市街清麗なり。

杭州府は、浙江省にありて、人口八十萬を有し、絹帛の製造

盛なり。

福州府は、福建省にありて、人口六十餘萬を有し、繁華の開港場なり。廈門も、また福建省に屬する小島にして、我臺灣と交通の盛なる互市場なり。

廣州府は、即ち廣東なり。廣東省に屬して、珠江の口に當れり。古より外國貿易の盛なる所にして、其人口二百餘萬あり。其中三十萬は、船上の住居を爲すと云へり。

香港は、英領にして、廣州府の前面に在り。我長崎を距ること、海上一千二百五十哩、小島なれども、東西往來の要衝にして、東洋第一の互市場と稱せらる。

滿洲は、支那本部の東北に位し、北は、露領と朝鮮

滿洲

とに界し、西は蒙古に隣り、北は支那本部に接せり。部内を分ちて、奉天・吉林・黒龍江の三省となす。此地は、清國皇帝基業の地にして、固と廣大の地域を有したりしが、漸々露國に蠶食せられて、其清國に屬せるは、今は只、其西南の一部のみとなれり。

奉天府は、奉天省の首都にして、人口二十五萬を有し、堅固の城堡を備ふ。清朝宗廟の在る地なり。遼東半島、旅順口、大連灣、牛莊、金州、鳳凰城等も、また奉天省に屬す。是等は、明治二十七八年の役に、我軍の勇戦したりし所なり。牛莊は、遼河の口に當り、貿易繁盛の開港場なり。

蒙古

蒙古は、支那本部の北にあり。東は滿洲に隣り、西は新疆省

新疆省

に接し、北は西比利亞に界す。部内に、戈壁又は翰海と稱する大沙漠ありて、此部の中央を東西に劃り、其南を内蒙古と云ひ、北を外蒙古と稱す。庫倫は、又ウルガと云ふ。外蒙古にありて、庫倫辦事大臣の官邸の在る所なり。賣買城は、其北境にあり。地勢峻惡なれども、清露貿易の要地なり。新疆省は、蒙古の西にあり。西北は露領と界し、南は西藏と隣り。天山々脈其中央に連亘し、昔は、其南を天山南路又回疆と稱し、北を天山北路又新疆或は伊犁とも稱したりしが、近年は、此兩路に甘肅省の一部を加へて、これを新疆省となしたり。

西藏

迪化府又ウルムツチは、天山の北部にあり。新疆省の首都にして、新疆巡撫の駐在する所なり。

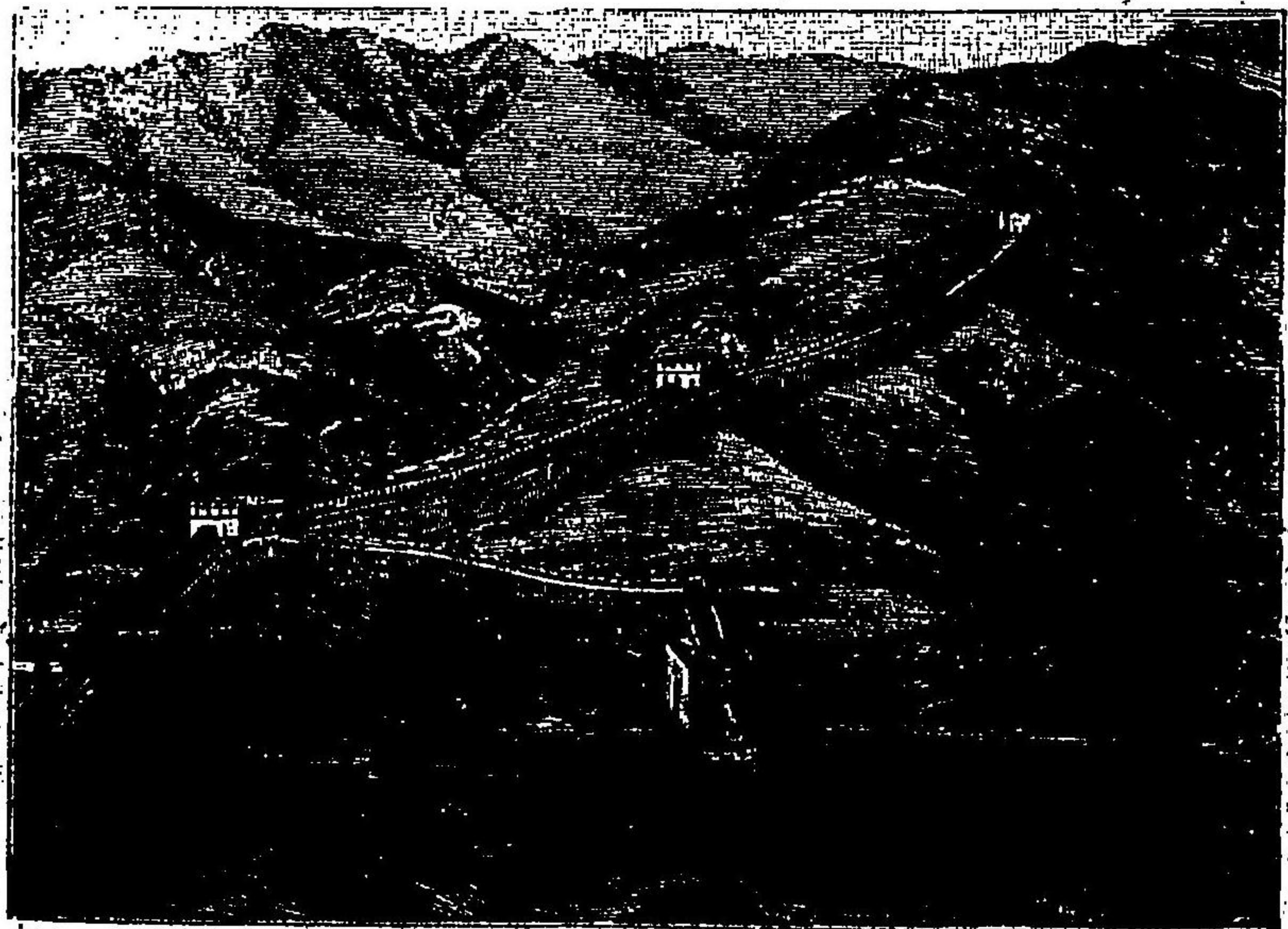
西藏は、支那本部の西に在り。北東に崑崙山脈を負ひ、南西に比馬拉亞山脈を控へ、城内ことごとく高地に屬し、其平均の高さ一萬三千尺に達し、世界第一の高原と稱せらる。城内を東西兩部に分ち、東を前藏と稱し、西を後藏と稱す。ラツサは、西藏の首都にして、前藏にあり。教主大喇嘛の殿舎れよび駐藏辦事大臣の官邸の在る所なり。

土功

(五)土功 古來、支那に大土功二あり。一は萬里、長城にして、一は大運河なり。萬里、長城は、東の方奉天省の山海關より起り、西の方甘肅省の嘉峪關に達す。其長さ五百七十餘里、

厚くして高く、堅固の城壁にして、處々に堡寨を設けたり。是は、今を距ること二千有餘年前、秦の始皇帝が、匈奴の侵入を防がん爲に築きたる所なり。

運河は、其長さ三百里に餘れる大溝渠にして、北の方天津より起り、南して黄河、楊子江と交叉し、浙江省の杭州府に達せり。今を距ること一千餘



萬里長城

年前隋の煬帝が開鑿したりし所なり。往時は頗る運輸に便益を與へたりしが、近年は其修復を怠れるにより、其利を全くする能はざるに至れりと云ふ。

氣候

(六)氣候・産物・氣候は、各部一様ならずと雖も、其大略を言へば、北西兩部の地方は、寒氣強くして、南部地方は、暑氣烈しく、中央以東は、中和溫暖なり。而して北京地方は、寒暑共に劇しくして、其冬は、我北海道の北部に均しく、夏は九州の南部に似たり。又滿洲地方は、八月に霜降り、九月に雪降り、十月より翌年の四月に亘りては、地盤全く氷結す。蒙古地方は、大沙漠の爲に、其寒暑の差著しく懸隔し、西藏地方は、土地高隆なるが故に、寒威最も甚しと云へり。

産物

支那は、古來農産を重じたる邦國にして、農産物に饒なり。即ち本部地方には、米穀・茶・綿・麻・桑・甘蔗・煙草等を産し、滿洲の南部れよび天山南路には、小麥・大豆・大麻・綿・煙草等を出す。鑛物は、甚た多きに似たれども、其採掘の業は、未だ甚た發達せず。製造品は、陶磁器最も著名にして、織物・象牙細工等之に次けり。殊に西藏の佛具は、美麗を以て名あり。牧畜は、北部れよび新疆地方に盛に行はれて、牛・馬・驢・豕・羊・駱駝等を産す。總て、支那は、本部地方のみ生業發達したれども、其他は、未開の境を脱せず。特に蒙古地方の人民の如きは、水草を逐ひて、牧畜の業を營むに過ぎず。輸出品の主要なるは、絹布・生絲・茶・砂糖・穀物・紙等にして、輸入品は、綿・阿片・金

沿革

屬れよび歐米諸國の雜貨、我國の海産物等なり。

(七)沿革 此國は、世界に比類少き古國にして、其創建は、今より大約四千年前にあり。其後次第に進歩して、一時は隆盛を極めしこともありたれども、邦家の興亡頻繁にして、國運次第に沈滞せり。今の清朝の高祖愛親覺羅氏は、二百餘年前、滿洲地方より起りて、四方の隣國を略取し、遂に支那本部を征服して、此大帝國を建てたるなり。

住民

(八)住民 人種は、蒙古種なれども、之を細別すれば、漢種、通古斯種、苗越種、蒙古種、土耳其種、西藏種の六種あり。通じて之を支那人と稱す。通古斯種は、滿洲地方より起りたる種族にして、勢威最も盛なり。其性質たる、滿洲人は、慍悍なれ

ども、其他は概ね溫和にして、能く困難を忍び、又貨殖に長せり。然れども、舊慣を固執して進取の氣象に乏しく、優柔閑雅の風あり。清朝の創建以來、天下に令して、滿洲服を著せ、男子には辮髪を長く後に垂れさせたり。女子は耳に金環を穿ち、また其足を緊縮して小ならしむる風あり。加之、人民一般に阿片を吸ふを好める故に、人心れのづから情弱に陥る弊あり。國教は儒教を奉ずと雖も、又佛教をも信じ、稀には道教を守れるものあり。回々教、基督教は、往々其間に行はる。

政體

(九)政體 政體は、古來君主專制なり。今の政府は、滿人と漢人との權衡を失はざらんが爲に、高位の官は、偶數を以て

これを定むるを例とせり。内閣は、大學士四人、協辦大學士二人より成り、其下に、吏部・戸部・禮部・兵部・刑部・工部の六衙門あり。其長官を尙書と稱し、各二人を置く。尙書の次に、左右侍郎各二人あり。又軍機處は、軍機に關する事務を掌り、海軍部衙門は、海軍の事務を管し、總理衙門は、外國に關する事務を掌る。其他、内務府ありて、帝室の庶務を司り、理藩院ありて、藩部の政令を統ぶ。地方の行政は、樞要の各省に總督を置き、其下に巡撫を屬せしむ。但し、或は總督のみを置きて、巡撫を缺き、或は巡撫のみを置きて、總督を缺くこともあり。省は、之を府・州・廳縣等に分ち、各長官を置きて、其地方の政務を處理せしむ。

兵制

陸軍は、八旗兵・綠旗兵・勇兵の三種に別ち、八旗兵は、第一旗より第八旗に至り、每旗に、滿洲・蒙古・漢軍の三旗あり。海軍は、北洋・南洋・福建・廣東の四艦隊に分ち、特に力を北洋艦隊に用ひしむ。日清の役に、殆ど之を失へり。又海陸の兩軍は、各相當の兵員を有すれども、いづれも軍律正しからず、士氣振はず、其兵器の如きも、多くは舊式に甘じ、新式に従ふことを好まず。従て、未だ進歩の域に至らざるなり。

第三 暹羅

位置

(一)位置 暹羅は、後印度の中部に位し、東北は安南に界し、西北は緬甸に接し、南は暹羅灣を抱き、西南は馬來半島に連れり。其面積三萬三千餘方里、人口凡そ六百萬あり。

地勢

(一)地勢 安南山脈、國の東北を繞りて、地勢は南方に傾斜せり。故に、北部は概ね山地にして、南部には平野頗る多し。河流の大なるは、メコン・メナンにして、其流域は、地味最も肥沃なり。

區劃都邑

(二)區劃都邑 國內を分ちて、四十一州とす。盤谷は、此國の首府にして、メナンの河口より、八里餘の上流にあり。人口凡そ二十萬を有し、後印度第一の都會たり。市民中舟上に住居するもの少からず、市内また寺院に富みて、高塔諸處に聳てり。

氣候產物

(三)氣候產物 氣候は炎熱にして、終歲霜雪を降さず、且つ雨露潤澤にして、植物能く繁殖せり。農産物は、米穀、胡椒、甘

蔗等にして、山林には、虎、豹、犀、象等の動物を産し、檳榔、香木、麻栗樹等の植物を生ず。

沿革

(四)沿革 此國は、今より二百餘年前、駿河の人山田長政が、渡航して武勇を顯し、遂に其國政を掌握したりし所に於て、當時は、我國人の居留せるもの多く、日本街を建てたりと云へり。近年は、國力尙ほ微弱なれども、歐米の文物を採用して、教育を勵み、軍備を整へ、郵便、電信の制を設けて、大に開明の域に進まんとす。

政體住民

(五)政體住民 君主專制の王國にして、貴賤上下の差別甚だ嚴なり。土人は、蒙古の一種にして、皮膚淡褐色を帶べり。又馬來人、支那人の内地に雜居せるものも、其數少からず。

國民は遊惰にして、業務を勵まず、卑陋にして、半開國の風を脱せざるもの多し。文學は、梵語より出でて、稍見るに足るべきものあり。ことに近來は、學藝を獎勵して、多くの學生を英・佛・獨諸國に留學せしむ。宗教は、佛教盛行はれて、到る處に宏大なる佛刹あり。

歐羅巴中部



位置

地勢

第二章 歐羅巴諸邦

第一 英吉利

(一)位置 英吉利は、大西洋中に位せる島國にして、東北は北海を控へ、南は英吉利海峽を隔て、佛蘭西と相對す。其面積二萬三千餘方里、人口三千八百餘萬あり。

(二)地勢都邑 此國は、大貌列顛及び愛蘭の二大島より成り。大貌列顛を分ちて、蘇格蘭・英倫・威爾士の三部とす。蘇格蘭は、北部にして山地多く、英倫・威爾士は、南部にして平野多し。河流は、島國なるを以て、大なるものなし。其稍有名なるは、テムス河・ハムバール河・オーズ河等とす。此諸川は、流程九十里を超えずと雖も、水勢緩にして、灌漑運輸の

都邑



倫 敦 市 街

利多し。

首府倫敦は、英倫にありて、テムズ河に跨り、其規模の宏大にして繁華なる、世界第一と稱せらる、人口四百四十餘萬あり。此府の南部にある緑威の天文臺は、世界各國經度の起點たり。
リヴァプールは、メルセイ河上にありて、倫敦に次ける大市府なり。

其他、マンチエスター、バーミンガム、リーズ、シェツフィールド、ニューカッスル等も、皆英倫の都會にして、各種の製造業頗る盛大なり。

グラスゴウは、蘇格蘭第一の都會にして、エディンバラは、同部の首府なり。またダブリンは、愛蘭の首府にして、市街頗る美麗なり。

(三)氣候・産物 此國は、温帶の北部に偏したれども、氣候は概して温暖なり。然れども、其空氣は濕潤にして、雲霧常に陰翳し、爽快の天氣極て稀なり。

産物は、鐵・石炭等の鑛物に富み、其産額極て多し。製造品の主要なるは、綿布・毛布・鐵器・磁器・船舶等にして、其業の盛大

産物

氣候

なる、世界第一たり。農業もまた頗る發達して、小麥・大麥・馬鈴薯等を産出すれども、なほ國內の需用を充すに足らずと云へり。

沿革

(四)沿革 此國は、昔は各部獨立したりし邦國なりしが、次第に合同して、遂に一國を組成したるなり。故に、其風俗習慣等は、今なほ往々その趣を異にせる處あり。然れども、國民一般に愛國心深く、進取の氣盛にして、一旦事に當れば、必ずこれを仕遂げされば、止まざる風あり。殊に、古より航海通商の術に長じ、世界各國に往來し、拓地殖民の業を企てたれば、今は其海外の版圖、大約一百五十四萬餘方里にいたり、人口三億四千五百萬の多きに及ぶと云へり。

政體住民

(五)政體・住民 政體は、立憲君主政にして、宗教は、耶穌教なり。其中、大貌列顛は、新教を奉ずるもの多く、愛蘭には、舊教を奉ずるもの多し。國民は、一般に機敏にして、且つ忍耐力に富めり。

第二 佛蘭西

位置

(一)位置 佛蘭西は、歐羅巴の南西部に位し、東より東北に亘りて、白耳義・獨逸・瑞西・伊太利の四國に接し、北は海峽を隔て、英吉利に對し、西はビスケー灣に臨み、南の一半は地中海に瀕し、他の一半は西班牙に界せり。面積三萬四方里、人口三千八百餘萬を有す。

地勢

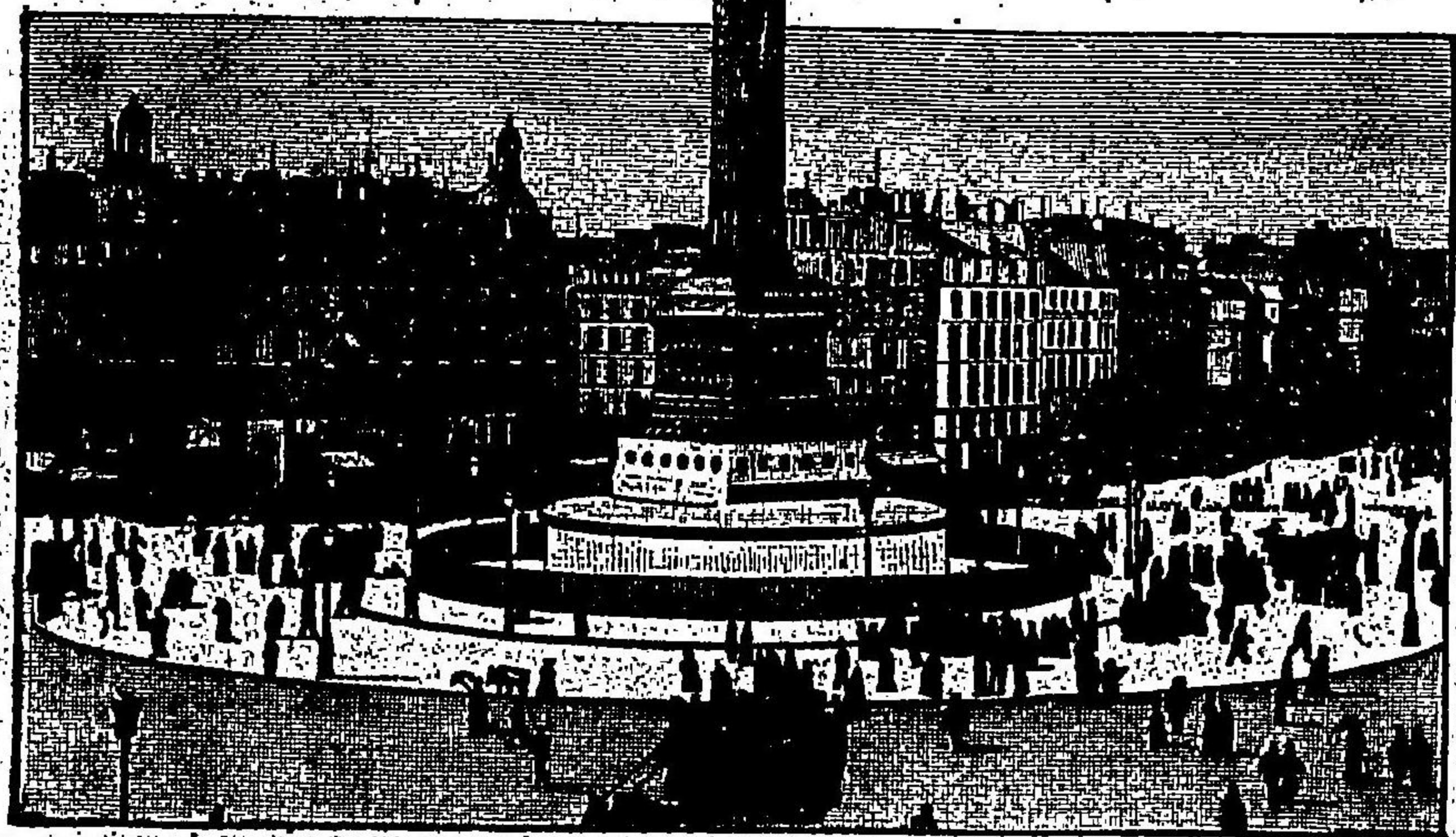
(二)地勢・都邑 國の西南境には、ピレニースの連山あり。東

都邑

南境には、アルプスの高山脈あり。其他、東境には、山岳連亘して、山地多けれども、西部に至りては、概ね平地なり。

河流の大なるは、ロ
アール河・セーン河・ガ
ローン河・ローン河
等にして、皆水運の
便多し。其沿岸に繁華なる都市
あり。

首府巴里は、セーン河の岸にあ



柱 念 紀 里 巴

氣候產物

りて、人口二百五十萬を有す。市街清潔にして、家屋の壯麗なる、世界第一と稱せらる。

リオンは、ローン河の岸にあり。織物業の盛なる地にして、人口四十五萬を有す。マルセイユは、地中海に臨める要港にして、我國人の歐洲に航するものは、概ね此地より上陸す。其他ポルドー・アイヴル・ツールーズ等、著名の都會多し。

ポルドーは、ポルドー酒の輸出盛なり。

(三)氣候產物 氣候は中和にして、寒暑共に甚しからず。國內の地味肥沃にして、植物能く生育せり。其農産物の主要なるものは、穀類・麻・桑・橄欖・葡萄等にして、中にも、葡萄の栽培は最も盛なり。製造品には、絹布・レース・磁器・玻璃器・時計

沿革

れよび貴重なる粧飾品多し、蓋し、工藝品の精巧なるは、此國民特得の妙技にして、他國人の遠く企及せざる所なり。
〔四〕沿革 此國は、昔時より英雄豪傑の多く出でたりし所にして、時に世界の形勢に大變動を與へたりしこともありき。又文學技藝に於ても、常に歐洲文明の中心となりて、流行の發源なり。近代は、内亂外寇並び起り、政體の變動もまた頻繁なりけるが、共和政治國となりてより、國體漸く確立して、國運次第に隆盛に赴けり。
海外の領地は、英國の如く廣大ならざれども、各大洲に散在する殖民地を合算すれば、其面積大約十一萬餘方里にして、人口二千萬に下らざるべしと云へり。

住民

〔五〕住民 宗教は耶蘇舊教にして、新教を奉ずるものは甚少し。國民の言語・文章は、高尚にして優美、以て諸外國上流社會の間に行はるゝもの多し。人種は羅甸種族にして、英人・獨人とは其系統を異にし、機敏にして勇敢なれども、なほ輕躁浮薄奢侈に耽るの弊を免れず。

第三 西班牙

位置

〔二〕位置 西班牙は、歐羅巴の西南端、イベリア半島にある國なり。東南は地中海に瀕し、北方一半は佛蘭西に接し、一半はビスケー灣に臨み、西は、葡萄牙に界し、其一部は大西洋に面せり。面積三萬三千餘方里、人口一千七百五十餘萬あり。

地勢

(一)地勢都邑 高峻なる山脈、國內に連りて、低地少く、瑞西に次ける歐洲の高原地なり。河流の大なるは、エブロー河、ヅーロー河等の諸流あれども、運輸灌漑の利多からず。馬德里は、國の首府にして、中央の高原に位し、人口四十餘萬を有す。

都邑

バルセロナは、最も繁華なる都會にして、諸織物の製造盛に行はれ、貿易もまた盛なり。

氣候產物

(三)氣候產物 氣候は、概ね溫暖にして、空氣常に乾燥せり。但し、高原の地は、寒暑共に烈し。產物の主要なるものは、羊毛、塞子、葡萄、橄欖油、橙生絲等にして、諸種の鑛物もあれども、現今は其採掘盛ならず。

沿革

(四)沿革 此國は、地中海と大西洋とに瀕し、交通至便の地位を占められたれば、中古時代にありては、外國貿易極て盛にして、他國の抵抗するものなく、獨り海上の權を擅らしたり。されば、亞米利加の發見に力を添へて、宇内に名譽を輝らしたりしが、其後、航海の業は、國運と共に衰へて、海外の殖民地次第に減少し、僅に西印度諸島と、フィリッピン群島とを餘せしむ。近年又之を失はんとする有様なり。

政體住民

(五)政體住民 政體は、もと君主專制なりしが、近年は、立憲君主制となりて、専ら英國の制に倣へり。宗教は、耶蘇舊教を國教とす。國民は、一般に怠惰の風ありて、百事他の本洲諸國に後れたるが如し。

第四 葡萄牙

位置

(一)位置 葡萄牙は、イベリア半島の西部に位し、西南の二方は大西洋に臨み、其他は西班牙と界せり。其面積は六千餘方里、人口は五百四萬あり。

地勢

(二)地勢・都邑 國の北部は、西班牙山地の餘勢を受けて、山岳多く、南部は概ね平坦にして、原野多し。

都邑

首都里斯本は、大西洋に臨み、テガス河に跨り、人口三十餘萬を有し、貿易盛大なり。

オポールトも繁華なる地にして、ドローロ河に沿ひ、ポルト酒の輸出盛なり。

氣候産物

(三)氣候・産物 氣候は溫暖にして、雨量多く、最も植物の繁

殖に適せり。産物には、葡萄酒・果物・小麥・玉蜀黍・馬鈴薯・葱・塞子・銅・鐵等あり。

沿革

(四)沿革 此國は、古より航海の術に長じ、曾て西班牙と共に、遠洋航海を企て、亞非利加の南端喜望峰の航路を發見したり。故に、歐洲人の我國に交通したりとは、此國人を以て始とす。其頃は、國力盛大にして、海外に多くの領地を有したりしが、其後に至りて、西班牙・佛蘭西等の侵畧を被りて、國威漸く消沈し、今は海外の領地甚た少し。

政體住民

(五)政體・住民 政體は、立憲王國にして、宗教は、専ら耶蘇舊教を奉ず。人民は、西班牙と同種族なるを以て、言語・風俗等もまた略、之に同じ。

第五 伊太利

位置

(一)位置 伊太利は、地中海の中部に斗出する半島國にして、アルプス山脈を以て、佛蘭西、瑞西、澳地利の三國に界せり。其面積一萬九千餘方里にして、人口は三千餘萬あり。

地勢

(二)地勢都邑 國の北部は、地勢平坦なれども、アペナイン連山ありて、國中に蟠屈せるが故に、北部の外は、すべて土地起伏して、平原少し。此山脈中に於けるヴェシユヴィアス山、シリ島のエトナ山は、世界有數の大活火山なり。ポー河は、此國の大河にして、北邊の原野を回流し、水利頗る多し。

都邑

羅馬は、此國の首府にして、耶蘇舊教の大本山なり、人口四



東羅馬の古城

十餘萬あり。古代の盛時には比すべくもあらざれども、羅馬大帝國の遺跡、法王の宮殿等、觀るべきもの猶ほ甚た多し。特に聖彼得の會堂の如きは、其壯麗にして廣大なる、世界第一と稱せらる。子イプルスは、國內第一の大都會にして、人口五十餘萬を有し、風景絶佳の稱あり。其他ヴェニス、ネアポリスは、名高き貿易港にして、パレルモ！

氣候

テューリニンフロレンス等は繁華の都會なり。

(三)氣候・産物 氣候は溫和にして、一年中宛も春の如し。然れども、北部はアルプス山脈の寒風を受けて、寒氣強く、南部は亞非利加地方の熱風來りて、熱度高し。

産物

産物には、小麥・米・玉蜀黍・橄欖・栗子其他の果物あり。海岸地方には、鮪・鰯等の漁利多し。また其地味桑樹に適するを以て、養蠶の業殊に盛なり。製造品には、繪畫・彫刻・藁細工・造花等あり。

沿革

(四)沿革 此國は、古代の羅馬帝國にして、其盛時に方りては、歐洲の過半を征服して、富強を極めたりしが、其滅亡後は、或は外國に侵掠せられ、或は國內の分裂を來して、國力

政體住
民

永く不振の域に沈めり。然るに、近年に至り、サールデイニア王起りて、國內を統一し、伊太利國王の位に即き、大改革を行ひてより、勢力頓に恢復して、今や歐洲強國の一に數へらるゝに至れり。

(五)政體・住民 政體は、立憲君主制にして、宗教は、耶蘇舊教を奉ずるもの多し。言語は、羅匈語の轉訛したるものを用ふ。國民は、古來美術思想に富みて、音樂・圖畫・彫刻・建築術等の名工を輩出す。然れども、有用の學術に至りては、英・佛・獨等の諸國に一步を譲れり。

第六 澳地利・匈牙利

位置

(一)位置 澳地利・匈牙利は、歐羅巴の中部に位し、北西は獨

地勢

逸に隣り、北東は露西亞に接し、東南は羅馬尼亞、サールヴ
 イア、土耳其及びモンテネグロに界し、南はアドリアティッ
 ク海に臨み、西は瑞西及び伊太利に連れり。其面積は、四萬
 餘方里にして、人口は四千一百萬餘あり。

(二)地勢都邑 地勢は、西にアルプス山脈を帯び、北東の兩
 面には、カールペシアン山脈を繞らせるを以て、匈牙利平
 原のガリシアを除く外は、概ね山地に屬せり。河流の大な
 るは、ダニユーブ河にして、其水利頗る多し。

維也納は、澳地利の首府にして、ダニユーブ河上流の沿岸
 にあり。人口百三十萬を有し、歐洲第四の大都會と稱せら
 る。有名の大學及び博物館等あり。

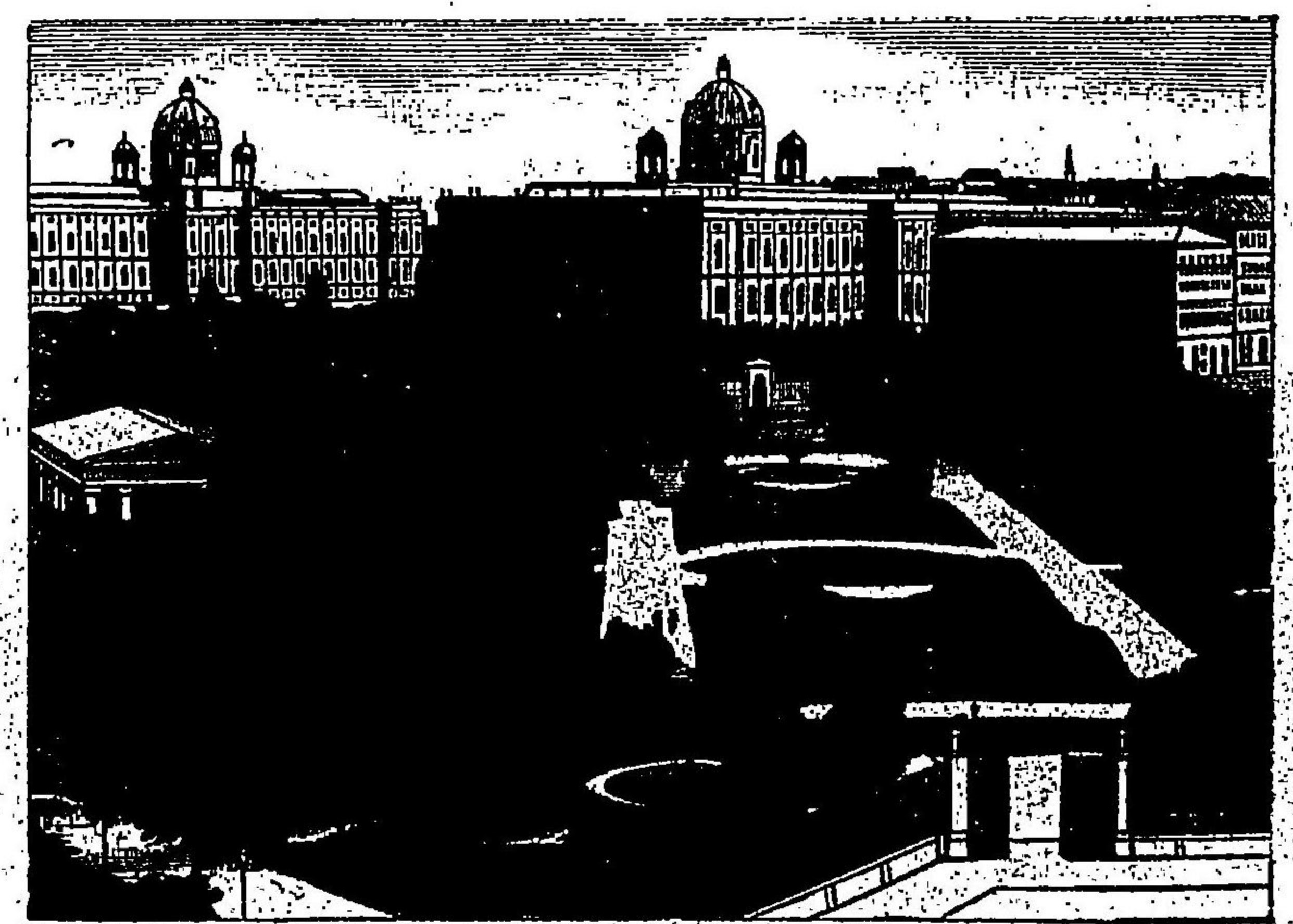
都邑

氣候

ブダペストは、匈牙利の首府
 にして、ダニユーブ河に跨り、
 人口五十餘萬を有して、商工
 の業盛なり。

トリイエストは、アドリアテ
 イツク海の沿岸にありて、國
 中第一の要港たり。

(三)氣候産物 北部は近寒に
 して、南部は温暖なり。而して、
 其國の位置、太平洋に遠隔せる
 を以て、寒暑の變化最も激烈



維也納博物館

なり。

産物

産物は、小麦・裸麦・麻・葡萄酒・烟草・砂糖等にして、國民の過半は、農業に従事せり。また鑛業・牧畜業・種樹業も盛に行はる。

沿革

(四)沿革 澳地利國は、古來獨逸聯邦の一部にして、其王室は、世々獨逸皇帝の尊號を受けて、聯邦の盟主たりしが、亨漏士國の強盛なるに及び、遂に聯邦外に排斥せられて、別に一國をなしたり。

政體

(五)政體 住民 澳地利と匈牙利とは、一君別體の國にして、各自に獨立の政府を立て、之を分治す。然れども、海陸の軍備並に外交・財政の事に關しては、共同一體をなせり。政體は、立憲君主制にして、其君主を澳地利皇帝兼匈牙利王

住民

と稱す。

國民は、數多の種族雜居せるものにして、言語・風俗・宗教等は、一様ならず。然れども、言語は獨逸語を用ふるもの多く、宗教は耶蘇舊教を奉ずるもの多し。

第七 瑞 西

位置

(一)位置 東は澳地利に連り、南は伊太利に界し、西は佛蘭西に隣り、北は獨逸に接す。其面積は二千七百餘方里にして、人口は二百九十餘萬なり。

地勢

(二)地勢 都邑 アルプス山脈國の東南に連り、其支脈國內に蟠れるを以て、平地といへども、海面を抜くこと一千二百尺に下らず、實に歐洲第一の山國たり。河流は、隣國諸大



中山西瑞

河の源をなせるもの數流あれども、皆急流にして、舟楫を通せず。湖水は最も多し。其大なるをジエ子ヴァコンスタント・ニユーシャテル等とす。是等は、皆風景絶佳にして、アルプス群湖の名、世に著はれたり。
ベルンは、此國の首府なれども、人口僅に四萬六千に過ぎず。ツリーツク・ジエ子ヴァバ

都邑

氣候

産物

沿革

住民

（一）ルの三都會は、製造商業共に盛なり。

（二）氣候産物の氣候は、山國なるを以て、概して寒冷なる故に、夏季には、他國人の避暑に來るもの多し。

産物は、絹布・綿布・毛布・麻布・時計等にして、其製作最も精巧なり。穀物の産額は少量なれども、牧畜は盛に行はれて、牛酪・乳酪等を出せり。

（四）沿革 此國は、もと澳地利の一部なりしが、獨立して共和政府を立てたり。此國、常備兵の設なけれども、一旦緩急あらば、全國の壯丁舉りて、國防に従事する制なり。

（五）住民 國民は、佛蘭西・獨逸・伊太利三國人の混合にして、言語・風俗等も、自ら三様の差別あり。宗教は耶蘇教にして、

舊教・新教並び行はる。

第八 白耳義

(一)位置 白耳義は、佛蘭西の東北に位する小國にして、東は獨逸に界し、北は和蘭に接し、西北一帯は北海に瀕せり。其面積は一千九百餘方里にして、人口は六百五十餘萬を有す。

(二)地勢都邑 地勢は、全國概ね平原にして、唯、東南部に、多少の丘陵あるのみ。河流には、ミューズ河・セルド河ありて、運輸灌漑の利多し。

首府ブラツセルスは、國の中央にありて、人口五十餘萬を有す。其市街清麗にして繁華なるが故に、小巴里の稱あり。

位置

地勢

都邑

アントウェルプは、商業を以て著はれ、ゼントは、綿布製造に由りて名高し。

(三)氣候産物 氣候は、略、英國と相似たり。但し寒暑共に彼よりも少しく強し。

産物は、麥類・甜菜・大麻・牛酪諸種の織物類及び鐵・石炭等なり。

(四)沿革 此國は、もと西班牙の領地なりしが、中頃、澳地利に屬し、後に和蘭と合して、子ザーランド王國と稱したり。然れども、宗教・人種等の關係より、遂に分離して、更に一國を建てたり。

(五)政體・住民 政體は、立憲君主制にして、宗教は、耶蘇舊教

氣候

産物

沿革

政體・住民

を奉ず。言語は種々なれども、佛蘭西語を用ふるもの最も多し。

第九 和蘭

位置

(一)位置 和蘭は、白耳義の北に位し、東は獨逸に界し、西及び北は、北海に臨めり。其面積は二千一百餘方里にして、人口は五百萬を有す。

地勢

(二)地勢都邑 地勢は、全國一面の平原にして、山と稱すべきものなし。其平原の大半は、海面より低し。故に、所々に堤防を築きて、海水の浸入を防ぎ、風車・ポンプ等を用ひて、常に排水に力を盡せり。然れども、運河・溝渠縱横に通じて、水運の便利なること、世界第一と稱せらる。

都邑

ヘーグは、此國の首府にして人口十七萬を有す。

アムスターダムは、國中第一の都會にして、人口五十萬餘を有し、歐洲貿易の大中心たり。市街は九十餘の小島上に位し、運河によりて北海と相通せり。ロツターダムも、亦商業の盛なる地なり。

氣候

(三)氣候・産物 氣候は、白耳



アムスターダム府